

歴史地震総目次(第1号～第34号)

歴史地震研究会の会誌『歴史地震』の第30号までに収録された全記事の表題・著者名・掲載頁は「歴史地震総目次(第1号～第30号)」として、『歴史地震』第31号に収録されている。この総目次の作成方法の詳細などは以下のとおりであるが、より詳しくは『歴史地震』第33号240～242頁に紹介している。本目次は、その後に発行された号の情報も同じ方法で追記したものである。

作成方法: 古い『歴史地震』には、目次と本文中の記事における表題などが異なっている場合があるため、本総目次は冊子版の目次の単なる集約ではない。研究会ホームページに掲載するために作成された会誌バックナンバーの情報を原案として用い、**原則として収録記事に書かれた表題・著者名・頁番号に基づいて全面的に作成し直している。**ただし、表題中の明らかな誤植・年号間違いは、修正したものがある。また、著者名の明らかな誤記や同一著者の氏名の表記にぶれが認められる場合(例えば、渡辺と渡邊)は、後世に別人物が執筆したという誤解を残す原因になりうるので、便宜的にいずれかの表記に統一したものがあ。ただし、戸籍や正式名との一致を保証するものではない。

発行者・発行形態: 『歴史地震』の発行者は第14号までは東京大学地震研究所、第15号以降は歴史地震研究会である。第17号までは冊子体のみでの発行、第18号以降は冊子版と同一内容を歴史地震研究会のホームページでもオンライン公開している。

発行年: 第19号までは年度報告の意味として、実際の発行時期の前年が発行年として表記されている。例えば、平成12年3月31日発行の第15号の表紙には平成11年(1999)と印字されているが、東京大学地震研究所発行による14号までは、奥付にも実際の発行日は記されていない。しかし、これらのことは誤解を招きやすく、煩雑でもあるため、第20号からは発行日の暦年をそのまま発行年として表記するように改められている。2004年号が欠けているように見えるのは、休刊によるものではなく、このための見かけ上のものである。

利用上の注意: 本総目次の内容と既刊の『歴史地震』各号における目次との相違について、別途に正誤表を発行する計画はない。著書・論文等での引用文献として利用するなど、**正確を期する必要がある場合には、必ず利用者ご自身で原本を閲覧して確認するなどして下さい。**歴史地震研究会は、会誌『歴史地震』を国立国会図書館(全号)や都道府県立図書館の一部(17号から)などに寄贈しているため、歴史地震研究会のホームページに掲載されていない過去の号の閲覧や研究目的での一部複写をご希望の方は、図書館を利用して下さい。

第1号(1985)

東京大学地震研究所発行(14号まで同じ)

1510年永正の遠州灘今切の地震について	飯田汲事	1-10
歴史津波の史料—供養碑・記念碑について	羽鳥徳太郎	11-14
天正13(1585)年の伊勢神宮関係の地震史料について	上田さち子	15-25
安政地震を地方文書にみる一二、三の事例を通じて—	川村優	27-38
歴史地震の時刻精度	宇佐美龍夫	39-53
歴史地震研究で感じたこと(要旨)	石橋克彦	55-58
神奈川県寺院過去帳アンケート調査結果でみた歴史地震被害	都司嘉宣	59-78
近江の歴史地震	八木伸二郎	79-87
千葉県君津市大坂の岩田寺の伝承中に現れる延文5年(1360)の地震	都司嘉宣	89-103
地方史料に見える“地震”記載の一例—下総国香取郡武田村(現:千葉県香取郡神崎町武田)与惣右衛門「名主内見記」の一節—	川村優	105-116
房総における元禄地震—鴨川市の被害状況を中心—to	古山豊	117-124
過去帳でみる地震被害	菊池万雄	125-133
安政江戸地震における江戸諸藩邸の被害について	北原糸子	135-145
古文書に表われた記述と現地状況の差について1498年明応地震の津波被害を例として	中村操	147-155
慶長元年豊後(別府湾)地震の津波調査	羽鳥徳太郎	157
歴史地震の研究(2)万寿3年5月23日(1026年6月16日)の地震および津波の災害について	飯田汲事	159-166
明応7年6月11日(1498年7月9日)の地震・津波について	飯田汲事	167-176
江戸時代末までの新しい被害地震の表	宇佐美龍夫	177-187

応神天皇陵と地震断層
寒川旭 189-190

1694年(元禄7年)能代の地震
栗田泰夫 191-194

静岡県地域の七つの地震の震動様式
大庭正八 195-223

第2号(1986)

歴史的被害地震補遺—a.元治元年閏2月1日(1124年3月25日)の尾張の地震—b.応永14年1月5日(1407年2月21日)の紀州の地震—
飯田汲事 1-7

埼玉県北部でみられる古代の噴砂について
堀口万吉 9-14

歴史地震をもたらせた活断層についての若干の例
寒川旭 15-20

山梨県南巨摩郡身延町小田船原の善光寺の伝承中に現れる文正元年12月3日(1467-I-17)の地震
都司嘉宣 21-29

“飛騨”の地震について
八木伸二郎 31-38

文政11年三条地震の史料調査について
富田孝, 丹治郁夫, 神田和利,
渡邊健, 宇佐美龍夫 39-42

静岡県地域の大地震の際の河川の増水・氾濫(その一)
大庭正八 43-52

明治・大正期の地震観測の精度
浜松音蔵 53-58

日本の被害津波
渡邊偉夫 59-71

古地震の規模を推定する手法について
中村操, 内田篤貴, 河野博之,
笠原慶一 73-86

震度予測の試み
橋田俊彦, 島崎邦彦 87-95

安政2年江戸地震における旗本屋敷の被害について
北原糸子, 上田和枝 97-107

明和三年(一七六六)の津軽地方大地震について—新史料の紹介をかねて—
長谷川成一 109-119

湖沼底質堆積物中に記録された地震津波の痕跡—北津軽郡市浦村十三付近の湖沼系の例
箕浦幸治, 中谷周, 佐藤裕 121-128

菅江真澄遊覧記と古代の地震
佐藤裕 129-132

八重山地震津波(1771)の津波遡上高
加藤祐三 133-139

明和8年(1771)の地震津波について
中田高, 河名敏男 141-147

1677(延宝5)年関東東方沖の津波地震について(要旨)
石橋克彦 149-152

文化元年(1804年)象潟地震の震度および津波調査
羽鳥徳太郎 153-167

古地震における地震動の強さの表現について
宇佐美龍夫 169-181

「日本の震度調査表」に基づく震度の範囲とマグニチュードの関係
釜田正毅 183-189

相州柳島(茅ヶ崎市)で得た地震史料について
越川善明 191-197

第3号(1987)

古代の歴史史料に残る地震記録について
八木伸二郎 1-12

天正地震の再検討
伊藤純一, 宇佐美龍夫 13-26

近世地震史料の性格
伊藤純一, 渡邊健, 中野迪夫,
宇佐美龍夫 27-30

1498年明応地震及び1707年宝永地震の震度分布
宇佐美龍夫, 中村操, 内田篤貴 31-38

安永元年5月3日(1772年6月3日)の岩手県の地震について
宇佐美龍夫, 佐藤悦郎 39-53

1987年1月9日岩手県中部の地震の震度分布
中村操, 斎藤徳美, 野越三雄 54-66

近世文書より探る大谷崩の発生日について
森威史 67-92

安部川上流部・梅ヶ島村における安政東海地震の被害状況報告文書
森威史 93-113

1944年東南海地震における長野県諏訪の被害について
宮坂五郎, 飯田悦司, 伊藤和明 114-117

善光寺地震の研究(1)—青木雪卿の山崩図絵による調査—
宇佐美隆, 岡山ひかり, 宇佐美龍夫 118-165

善光寺地震断層系に関する史料と地震断層の現況
栗田泰夫, 奥村晃史, 佃栄吉 166-174

関谷活断層系沿いの街道・集落の移転と地震
寒川旭 175-177

最近の遺跡発掘調査により検出された地震跡 寒川旭	178-180	安政南海地震(安政元年11月5日、1854 XII 24)に伴う四国の地盤変動 都司嘉宣	149-156
明和津波と海底地殻変動 河名俊男, 中田高	181-194	善光寺地震における松代町の被害分布 宇佐美龍夫, 渡辺和幸	157-166
南琉球多良間島での八重山地震津波 加藤祐三, 日高和己, 大山春翠, 川野良信, 新城竜一	195-201	遺跡の地震跡—最近の研究の紹介— 寒川旭	167-172
羅賀の浪波石—明治三陸津波(1896年)の痕跡高再測量— 岩崎伸一, 竹田厚	202-205	巡見参加記 北原糸子	173-177
大阪における安政南海道津波の復元 河田恵昭	206-217	歴史地震史料のデータベース化に関する討論会 あいさつにかえて 宇佐美龍夫	179-197 181-182
西津軽・男鹿間における歴史地震の震度・津波調査 羽鳥徳太郎	218-219	データベース化の目的・及び本討論会の目的について 岩崎伸一	183-184
小津波の史料 都司嘉宣	220-238	データベースの利用にさいしての問題点 都司嘉宣	185-191
津波高と被害の関係 都司嘉宣	239-256	光ディスク装置による古文書管理システムについて 須藤元夫	193-197

第4号(1988)

明治以降の地震の倒壊率の距離減衰 渡邊健, 宇佐美龍夫, 浜松音蔵, 久本壮一, 山下利夫	1-9
明治以降の地震の震度の距離減衰 渡邊健, 宇佐美龍夫, 浜松音蔵, 久本壮一, 山下利夫	11-20
東北地方太平洋沿岸に影響を与えた歴史地震・津波の特徴—とくに宮城県沖地震について— 渡邊偉夫	21-36
瀬戸内海・豊後水道沿岸における宝永(1707)・安政(1854)・昭和(1946)南海道津波の挙動 羽鳥徳太郎	37-46
沖縄県宮古群島における八重山地震津波(1771)の挙動—新発見史料『思明氏家譜』付属文書『御問合書』による検討— 加藤祐三	47-56
海域地震における等震度面積とマグニチュードの関係 宇佐美龍夫, 宮村正光, 釜田正毅, 浜松音蔵	57-62
富士山噴火史 都司嘉宣, 井田喜明	63-119
寺院建築物の被害記事でみる安政(1854)東海地震 都司嘉宣	121-123
安政東海地震(1854-12-23)、安政南海地震(1854-12-24)の震度分布 宇佐美龍夫, 中村操, 加藤正男, 内田篤貴	125-148

第5号(1989)

日本の歴史に現れた最初の地震—允恭天皇五年七月十四日— 八木伸二郎	1-9
「六国史」に見る天変地変 八木伸二郎	11-14
遺跡で発掘された地震跡 寒川旭	15-21
元中8年10月16日(1391.11.20)の地震とその被害について 飯田汲事	23-24
正平15年10月5日(1360.11.22)の地震津波の検討および熊野地方の地震と津浪 飯田汲事	25-32
清州城下町遺跡及びその周辺地域から発見された歴史地震の記録 森勇一, 鈴木正貴	33-41
善光寺地震の研究(Ⅲ)—震度分布— 宇佐美龍夫, 古川元一, 松永恭介, 小沢和弥	43-68
家屋倒壊率からみた地震断層の長さ 渡邊健, 宇佐美龍夫	69-83
対馬藩日記に記載された1730年の北京付近の地震 宇佐美龍夫, 上田和枝	85-86
花井日記に記載された1833年から1847年までの宮城県涌谷における地震記事について 渡邊偉夫	87-97

安芸灘における歴史地震の規模と津波の可能性 羽鳥徳太郎	99-109
沖縄県宮古群島下地島「帯大岩」の起源 加藤祐三	111-115
山奈史料による寛政津波の岩手県山田町田ノ浜での調査 今村文彦, 卯花政孝	117-125
東日流外三郡誌に記された地震津波史料 都司嘉宣	127-149
歴史地震史料集のデータベース化について—パソコンで読める史料集— 岩崎伸一, 吉井敏尅, 都司嘉宣, 石橋克彦, 笠原敬司, 小見波正隆	151-155
「実はこうです」コーナー	157-160

第6号(1990)

宝暦12年(1762)・享和2年(1802)佐渡地震の規模と津波 羽鳥徳太郎	1-7
沖縄県宮古群島下地島北岸における津波石 加藤祐三, 田村一浩, 松尾憲一	9-14
花井日記に記載された1833年から1847年までの宮城県涌谷における地震記事について(続) 渡邊偉夫	15-26
1792年(寛政4)の島原眉山崩壊に伴う津波の高さについて 渡邊偉夫	27-36
下北半島地震津波史 都司嘉宣	37-45
この日の遠地津波記録 WANTED(指名手配)します 都司嘉宣	47-59
東北日本における巨大津波の発生と周期 箕浦幸治	61-76
岩手県田老町田老での三陸大津波調査 今村文彦, 渡辺智洋	77-95
徳島の津波 村上仁士, 細井由彦, 島田富美男	97-107
[吾妻鏡]にみる天変地変の記録 芝野健次, 八木伸二郎	109-122
泉州堺に残る地震の記録 八木伸二郎	123-130
遺跡で検出された地震跡の諸特徴について 寒川旭	131-135
古代中世の富士噴火を記す「富士史」と「相模国寒川神社日記録」の史料批判 都司嘉宣	137-148

天明三年(1783)浅間山噴火に伴う鳴動音の記録 日野貴之, 都司嘉宣	149-160
善光寺地震の余震にみられる一特徴 宇佐美龍夫, 池井戸憲	161-165
安政南海地震後の高知市の水面変動 宇佐美龍夫, 上田和枝	167-179
有史以来の地震回数の変遷 上田和枝, 宇佐美龍夫	181-187
資料解析による都市直下型大地震時の被害者数の推定法 河田恵昭	189-198
巡検報告 上田和枝	199-203
「実はこうです」コーナー	205

第7号(1991)

鎌倉における明応(1498)・元禄(1703)・大正(1923)津波の浸水域 羽鳥徳太郎	1-10
徳島県と和歌山県沿岸における津波災害の比較 羽鳥徳太郎	11-19
岩塊の移動から推定した津波の挙動—琉球列島南部黒島での例— 加藤祐三, 松尾憲一	21-24
高波による石灰岩塊の移動—1990年台風21号による沖縄島残波岬での例— 加藤祐三, 赤嶺信一, 大堀健司, 玉木享, 田村一浩, 松尾憲一	25-38
寛政四年(1792)島原大変による熊本県側の津波高 都司嘉宣, 日野貴之, 前川清一	39-42
安政東海地震津波(1854 XII 23)の浸水高の精密調査 都司嘉宣, 日野貴之, 矢沼隆, 岩崎伸一, 北原糸子	43-55
徳島県日和佐における安政南海津波の痕跡高一奥河内村田地大地震ニ付潮入り御鋏下石寄からの推定 岩崎伸一	57-68
空気圧センサーを利用した津波観測・監視システムの構築 都司嘉宣, 加藤健二, 松本晃治, 原田智史, 浅田鉄太郎, 小山盛雄	69
宝永地震の最大余震と富士山噴火 日野貴之	71-73
Destructive Hawaiian Earthquakes in the nineteenth century Augustine S. Furumoto	75-83
静岡県地域の大地震の際の河川の増水・氾濫(その二)—白鳥山崩壊と富士川の水災— 大庭正八	85-98

地震が起こって人々は何をしたか—寛文二年五月一日 近江地震の場合—	三木晴男	99-104	文禄役講和使節の動静と堺の震災—文禄5(1596)年伏見地震の場合—	三木晴男	177-182
木造家屋倒壊率の距離減衰の偏差について	渡邊健	105-115	新潟県と近海における地震の放出エネルギー—1751 年新潟県西部地震・1828年三条地震の規模—	羽鳥徳太郎	183-189
岐阜県下呂町で発見された(島原大変 肥後迷惑)の 絵地図の紹介	八木伸二郎, 池之端甚衛, 田口利弘, 今井直人	117-119	第9回歴史地震研究会東京都防災センター見学記	岩崎伸一	191-194
最近の遺跡発掘で検出された地震跡	寒川旭	121-126	実はこうですコーナー		195
徳島県下の遺跡に残された地震痕跡	大西浩正	127-134	第9号(1993)		
第8回歴史地震研究会巡検報告	今給黎哲郎	135-142	地震考古学の成果と展望	寒川旭	1-8
八丈島における地震・津波資料の調査とその考察	宇佐美龍夫, 吉井敏尅	143-169	噴火堆積物と古記録からみた延暦19~21年(800~802 年)富士山噴火(予報)—古代東海道は富士山の北麓を通 っていたか?	小山真人	9-34
実はこうですコーナー		170-172	文禄役講話使節の動静と堺の震災②—文禄5年(1596) 伏見地震の場合—	三木晴男	35-42
第8号(1992)			貞享3年8月6日(1686年10月3日)の遠江三河地 震による遠洲横須賀城の被害	都司嘉宣, 上田和枝	43-61
1772(安永元)年岩手県の地震の震央を推定する	中村操, 内田篤貴, 斉藤徳美, 野越三雄	1-12	深発地震の可能性のある歴史地震	宇佐美龍夫, 久本壮一	63-92
東北地方太平洋海域の歴史地震の震央位置・地震規 模の推定方法の検討	宇佐美龍夫, 渡邊健, 植竹富一, 中村亮一	13-35	地震寸法について	宇佐美龍夫	93-98
新潟県中部の被害地震について	内田篤貴, 中村操, 斉藤徳美, 野越三雄	37-46	カムチャッカ半島海浜域の完新統に挟在する津波堆積 物	箕浦幸治, V.G. Gusiakov, A. Kurbatov	99-115
小田原地震と関東地方の有感地震の変化	都司嘉宣, 日野貴之	47-97	伊豆諸島の歴史津波と波高分布	羽鳥徳太郎	117-123
歴史地震データと活断層データに基づく近畿地方の地 震危険度解析	清野純史	99-115	永長東海地震(1096 XII 17)の津波被害を伝える沼津 市大朝神社の伝承	都司嘉宣	125-132
価値の低い地震史料(1)『御入国以後大地震考』と『時 雨廻袖』の「琴台書簡」	石橋克彦	117-128	自然科学を研究する立場から見た歴史地震研究会	高橋智幸	133-134
桜島安永噴火の降灰記録	日野貴之, 都司嘉宣	129-131	Tsunami deposits in a lacustrine sequence of the Sanriku coast, northeast Japan	Koji Minoura, Shu Nakaya and Masao Uchida	135-141
地震神としての鹿島信仰	都司嘉宣, 山本賢	133-156	岩手県気仙郡と宮城県気仙沼の歴史津波	渡邊偉夫	143-147
古代の天変・地変の記録の考察	鈴木朗, 八木伸二郎	157-170	1968年十勝沖地震の通信調査	茅野一郎	149-171
明月記(藤原定家)中に残された天変・地変の記録	八木伸二郎	171-176			

高知県南西部海岸における安政南海・宝永の両津波の高さ	日野貴之, 加藤健二	173-176
実はこうですコーナー		177

第 10 号(1994)

『文禄 5 年の伏見地震直後の動静』—公家・寺社・朝廷を中心として—	西山昭仁	1-17
浮説・誤伝とその系譜—文禄 5 年伏見地震の史料から—	三木晴男	19-27
慶長南海地震による高知平野の地盤変動から考えられる南海地震に伴う地殻変動	岡野健之助, 木村昌三	29-37
過去の地震にみられる木造家屋の耐震性	宇佐美龍夫, 色摩康弘, 中村亮一, 渡邊健, 久本壮一	39-54
わが国の歴史地震の被害一覧表について	宇佐美龍夫, 渡邊健, 野田静雄	55-61
わが国の歴史地震の震度分布・等震度線図について	宇佐美龍夫, 渡邊健, 西村功	63-75
沖縄島で発見された津波石	加藤祐三, 島袋直樹	77-82
1793 年(寛政 5)の宮城県沖(三陸沖)地震は津波地震か?—歴史地震から津波地震を判別する試み—	渡辺偉夫	83-93
須崎市を襲った歴史津波	都司嘉宣, 上田和枝, 荒井賢一	95-115
高知県須崎・宇佐における宝永・安政南海道津波の挙動	羽鳥徳太郎	117-125
四国における歴史津波の調査—愛媛, 高知県沿岸における歴史津波の痕跡高調査—	村上仁士, 島田富美男, 伊藤禎彦, 石塚淳一, 山本尚明	127-136
徳島県牟岐の津波	島田富美男, 村上仁士, 伊藤禎彦, 石塚淳一	137-146
土佐湾沿岸の津波災害危険度の評価	河田恵昭, 小池信昭	147-156
須崎市を訪れて	荒井賢一	157
慶長地震は津波地震か?	中村操	159-161

「歴史地震」に現れた歴史地震の年月日とその論文の表	渡邊健, 西村功	163-170
実はこうですコーナー		171-172

第 11 号(1995)

文禄 5 年の伏見地震直後の動静②—武家・民衆を中心として—	西山昭仁	1-14
1596 年伏見地震で被災した明国の使節を追って—	三木晴男	15-20
1882(明治 15)年 7 月 25 日沖縄島南部での地震の発見	加藤祐三, 森宣雄	21-24
歴史地震史料の検討例	渡邊健, 西村功, 宇佐美龍夫	25-27
日本列島下の三次元減衰構造及び震度データによる震源位置推定の試み	中村亮一, 島崎邦彦, 宇佐美龍夫, 西村功, 植竹富一, 渡邊健	29-36
地震の震度と震央距離から津波地震を判定する一方法—歴史地震への適用—	渡辺偉夫	37-53
岩手県沿岸における慶長(1611)三陸津波の調査	羽鳥徳太郎	55-66
ビスカイノが見た 1611 年慶長三陸津波の実態	渡辺偉夫	67-73
慶長 16 年(1611)、延宝 5 年(1677)、宝暦 12 年(1763)、寛政 5 年(1793)、および安政 3 年(1856)の各三陸地震津波の検証	都司嘉宣, 上田和枝	75-106
明治三陸津波の死者数と男女の比率などについて	山下文男	107-111
四国沿岸域における各種断層モデルを用いた津波シミュレーションの妥当性の検証	村上仁士, 伊藤禎彦, 山本尚明, 石塚淳一	113-125
飛鳥の津波観測施設	岩崎伸一	127-132
第 12 回歴史地震研究会 写真と絵で見る—明治三陸大津波展		133-136
昭和南海地震津波体験記—戸田勝啓氏の書簡—	宇佐美龍夫	137-139
実はこうですコーナー		141

第 12 号(1996)

歴史地震史料の再検討結果 9 例について	宇佐美龍夫, 渡邊健, 西村功	1-10
----------------------	-----------------	------

地震史料データベースの構築 上田和枝, 伊藤純一, 吉住みずほ 11-18	第 13 回歴史地震研究会に参加して 武村雅之 213-214
三次元減衰構造を考慮した震源決定—歴史地震への 適用の試み— 中村亮一, 西村功, 渡邊健, 宇佐美龍夫 19-20	防災教育と『稲むらの火』 清水勲 215-221
歴史地震とトレンチ調査 阿寺断層系の最新活動と天正 地震について 井上大榮, 遠田晋次, 宮腰勝義, 高瀬信一, 久保内明彦, 二階堂学 21-25	第 13 号(1997) 地震史料データベースの構築(2) 上田和枝, 伊藤純一, 吉住みずほ 1-4
1855 年安政江戸地震に伴った津波の検討 相田勇 27-38	地震動における三次元減衰構造の影響—遺伝的アル ゴリズムを用いた震度データによる震源決定の検討— 中村亮一, 西村功, 渡邊健 5-11
大正十二年関東大地震の体験談と東京での強震動の特徴 武村雅之 39-59	有感余震数を用いた歴史地震の震央決定 松井渉, 尾池和夫 13-22
京都とその周辺地域の有感地震データベース(416 年～ 1995 年)について 尾池和夫 61-70	文安 6 年(1449)京都地震の被害実態と地震直後の動 静 西山昭仁 23-39
津波地震 西城忠泰 71-82	1923 年関東地震の震源域での体験談から推定される 強震動の特徴 武村雅之 41-62
エーゲ海における歴史津波堆積物に関する現地調査 今村文彦, 箕浦幸治, 高橋智幸, 首藤伸夫 83-103	九州西部沿岸における津波の様相 羽鳥徳太郎 63-71
文禄五年(一五九六)伏見地震が歴史を変えた 三木晴男 105-116	1605 年慶長津波の鹿児島湾における異常潮位の一解 釈 相田勇 73-78
文禄 5 年(1596)の伏見地震の被害実態—伏見城・方 広寺大仏について— 西山昭仁 117-129	四国の津波被災地(土佐市宇佐・海南町浅川・牟岐)に おける住民意識について 山本尚明, 村上仁士, 上月康則, 後藤田忠久 79-88
微小地震観測の研究成果から見た南海道地震 中村正夫 131-140	すすから光へ 1905 年(明治 38 年)芸予地震の記録 宮川康平, 三浦勝美, 中西一郎, 田中聡 89-97
西南日本内帯の地震活動統計モデルによる次の南海 地震予測 堀高峰, 尾池和夫 141-145	島原四月朔地震(1792)と島原大変 井上公夫, 今村隆正 99-112
1946 年南海地震の震源域と次に発生が予測される南海 地震 木村昌三, 岡野健之助 147-157	七面山の山体崩壊による発生津波 富樫宏由, 平山康志, 谷口祐治, 国武正大, 熊本司郎 113-133
和歌山県沿岸の津波危険度 羽鳥徳太郎 159-167	寛政 4 年(1792)眉山崩壊による有明海津波の島原半 島側の津波浸水高 都司嘉宣, 村上嘉謙 135-173
和歌山沿岸の安政南海津波(1854)について 都司嘉宣, 岩崎伸一 169-187	パネルディスカッション雲仙普賢岳噴火とその対応 都司嘉宣, 清水洋, 三浦正司, 大島政助, 上田実男 175-185
南海道沖で発生する近未来巨大地震津波の到達時間 および津波高の予測 村上仁士, 山本尚明, 上月康則, 佐藤広章 189-198	「平成 3 年噴火災害時危機管理と学問の役割」余感— 歴史地震研究会パネルディスカッションを聞いて— 平尾明 187-188
パネルディスカッション「南海地震に備える」 河田恵昭, 都司嘉宣, 林春男, 山根木康之, 田中二郎, 柏木多美男 199-209	第 14 回歴史地震研究会に参加して 中村操 189-190
初めて参加した歴史地震研究会 佐藤一敏 211-212	

城郭殿舎建築における地震屋・地震之間・地震御殿の史的考察 加藤幸希 191-202

「文禄5年(1596)伏見地震が歴史を変えた」(『歴史地震』第12号)の一部訂正について 三木晴男 203

第14号(1998)

歴史地震史料の再検討結果11例について 宇佐美龍夫, 渡邊健, 八代和彦 1-17

元暦二年(1185)京都地震の被害実態と地震直後の動静 西山昭仁 19-44

地震発光データベースと発光現象の特徴抽出 榎本祐嗣 45-55

中部地方の歴史地震と土砂災害～主に天正地震(1586)、濃尾地震(1891)時に発生した大規模土砂移動について～ 井上公夫, 今村隆正 57-68

関東・東海沿岸における津波波高の地域性 羽鳥徳太郎 69-81

869(貞観11)年の地震・津波の実態と推定される津波の波源域 渡辺偉夫 83-99

浜名湖の湖底堆積物中の津波痕跡調査 都司嘉宣, 岡村眞, 松岡裕美, 村上嘉謙 101-113

平成10年6月23日三重・奈良県境を震源とする地震の震度分布 中西一郎, 土佐圭, 荒島千香子 115-121

遡上型津波堆積物の堆積相と堆積過程—1993年北海道南西沖地震津波の研究例— 七山太 123-126

宝永・安政・昭和南海地震による足摺半島の地盤の上下変動 岡野健之助, 木村昌三 127-136

阪神・淡路大震災の世帯の経済被害調査 坪川博彰, 矢田部実 137-145

高知県宇佐における津波に対する安全性の検討 島田富美男, 村上仁士, 山本尚明, 上月康則, 後藤田忠久 147-153

安政元年伊賀上野地震の断層運動の再検討 土佐圭, 中西一郎, 荒島千香子, 北村健洋, 西山昭仁 155-174

歴史地震と計測震度 歴史地震の震度と計測震度は対応するか 中村操, 山田眞, 野越三雄 175-182

明応東海地震(明応7年8月25日)の史料状況について 中村操, 西山昭仁 183-192

明応南海地震の存在について 明応7年6月11日の地震の可能性 中村操, 西山昭仁 193-199

第15号(1999)

歴史地震研究会発行(本号以降同じ)

口絵「聞書 大地震並ニ出火の次第」 北原糸子 i

飛鳥～平安時代前期の自然災害記録媒体としての六国史の解析—概報および月別情報量一覧— 生島佳代子, 小山真人 1-23

日本の地震噴火が9世紀に集中するようみえるのはなぜだろうか? 早川由紀夫 24-29

地震被害想定 of 歴史地震による検証 山口亮, 坪川博彰, 佐伯琢磨 30-34

歴史地震データに基づく震度Ⅲ～Ⅶの分布の特徴と活断層分布域 宇佐美龍夫, 渡邊健, 八代和彦, 中村亮一 35-42

四国4県における地震・津波の記録と被害状況について 村上仁士, 島田富美男, 山本尚明, 上月康則, 後藤田忠久 43-64

志摩国国崎(鳥羽市)の津波被災の歴史 都司嘉宣 65-71

伊勢湾における津波・高潮の波高分布 羽鳥徳太郎 72-80

史料による1662年寛文地震時の三方五湖周辺における地殻変動の復元 小松原琢, 水野清秀, 金田平太郎, 須藤宗孝, 山根博 81-100

安永元年(1772)岩手県沖地震の規模と津波の可能性 羽鳥徳太郎 101-106

高田地震(1751)と伊賀上野地震(1854)による土砂移動 井上公夫, 今村隆正 107-116

安政伊賀上野の地震(1854/7/9)の液状化被害 中村操 117-124

安政元年(1854)伊賀上野地震に関する史料調査—京都府南部地域について— 中西一郎, 土佐圭, 荒島千香子, 西山昭仁 125-131

小野コレクション伊賀上野地震のかわら版について 北原糸子 132-137

安政元年(1854)伊賀上野地震の断層運動の再検討(2) 中西一郎, 土佐圭, 荒島千香子, 西山昭仁 138-162

嘉永・安政伊賀地震の震源断層としての木津川断層系 上野市東高倉におけるトレンチ堀削調査から 苅谷愛彦, 伏島祐一郎, 宮地良典, 水野清秀, 寒川旭, 佐竹健治, 井村隆介, 奥村晃史, 柳田誠, 佐藤賢 163-170	鳥海火山東部に分布する十和田 a 直下の灰色粘土質 火山灰—貞観十三年(871年)の火山灰? 林信太郎, 毛利春治, 伴雅雄 99-106
安政東海・南海地震による大阪市内の被害分布 宇佐美龍夫, 渡邊健, 八代和彦 171-200	宝暦佐渡沖地震(1762年, M7.0)の震央の再検討 河内一男 107-112
「安政見聞誌」に所載の“地震時斗”—地震—磁気現象 の舞台となった浅草大すみ眼鏡店について— 榎本祐嗣 201-208	離水海岸地形からみた1703年元禄関東地震における 房総半島の地殻上下変動 宍倉正展 113-122
日記に記された大正関東地震の余震活動とその影響 武村雅之 209-224	1923年関東地震に対する千葉県内での詳細震度分布 武村雅之, 諸井孝文 123-145
北海道北部, 日本海沿岸部における津波堆積物調査 西村裕一, 宮地直道, 吉田真理夫 225-231	安政伊賀上野の地震の震度分布と震源 中村操 146-155
第16回歴史地震研究会に参加して 村上嘉謙 232-233	近世初期の自然災害記録媒体としての『当代記』の特 性分析 田中敏貴, 小山真人 156-162
第16回歴史地震研究会プログラム 234-235	元暦二年(1185)京都地震における京都周辺地域の被 害実態 西山昭仁 163-184
第16号(2000)	四国における津波越波の危険度に関する考察 佐藤広章, 村上仁士, 上月康則, 倉田健悟, 山本尚明, 西川幸治 185-193
地震砂防 井上公夫 1-10	高知県宇佐における歴史津波の人的被害発生メカニズ ムに関する考察 杉本卓司, 村上仁士, 上月康則, 倉田健悟, 後藤田忠久 194-202
善光寺地震の絵図型瓦版について 降幡浩樹 11-22	琉球列島宮古水納島の津波石 加藤祐三 203-205
善光寺地震(1847)におけるお寺の被害と地震動—本堂 の被害及び山崩れから見た地震像— 服部秀人, 小林清, 菊地敏男, 奥田暁, 大沼万孫, 岩楯敞広, 島垣 23-29	1935年苗栗地震(台湾)の再検討 青木元, 石川有三, 吉田康宏 206-215
善光寺地震で発生した山崩れから推定される地震の地 形変化への影響 望月巧一 30-37	『今村明恒伝』余録 山下文男 216-225
長野県下に震央のある被害地震で史料数の少ない地 震についての考察 渡邊健, 西村功, 宇佐美龍夫 38-52	天保6年6月25日(1835.7.20)地震は津波をとまなつ たか 茅野一郎 226-229
伊那谷における天正地震 松島信幸 53-58	『歴史地震』15号”四国4県における地震・津波の記録と 被害状況について”の訂正 村上仁士, 島田登美男, 山本尚明, 上月康則, 後藤田忠久 230-235
貞観十一年(869年)地震・津波と推定される津波の波源 域(総括) 渡辺偉夫 59-77	第17回歴史地震研究会参加記 宍倉正展 236-237
岩手県陸前高田市沿岸における津波の様相 羽鳥徳太郎 78-88	巡検報告「寛文地震時の三方地方の地殻変動をみる (2000年6月17~18日)」 小松原琢 238-239
明治(1896)三陸津波の死者数と文献上の混乱、更に、 服部一三・岩手県知事の被害報告について 山下文男 89-98	第17回歴史地震研究会プログラム 240-242

第 17 号(2001)

地震危険度評価における歴史地震の役割について—
地震危険度マップ試算と震度VI・VIIの分布—

中村亮一, 菅原正晴, 八代和彦,
宇佐美龍夫, 渡邊健 1-8

享保年度山林絵図面(1728年)に見る天正地震(1586
年)時の大規模山体崩壊と土砂移動について

坂部和夫 9-12

寛文二(1662)年地震=琵琶湖西岸活断層起震説の再
検討

小松原琢, 水野清秀, 松山紀香
13-26

江戸時代の歴史地震の震源域位置および規模の系統
的再検討作業について

松浦律子 27-31

1703年元禄関東地震に伴う三浦半島南部の地殻上下
変動—離水波食棚・生物遺骸の高度分布から見た検
討—

穴倉正展, 越後智雄 32-38

孀恋村鎌原における天明三年(1783年)浅間山噴火犠
牲者供養の現状と住民の心理

三枝恭代, 早川由紀夫 39-47

三条地震(1828)を描いた画帖「懲震毖鑑」
河内一男 48

文政十三年(1830)京都地震における震災対応
西山昭仁 49-68

1854年安政伊賀上野の地震の震源推定
中村操 69-79

富士山宝永噴火の推移を記録する良質史料『伊東志
摩守日記』 小山真人, 西山昭仁, 井上公夫,
今村隆正, 花岡正明 80-88

明治~昭和前期の地震・噴火に関する新聞記事デー
タベース 福山雅嗣, 谷口敬介, 小山真人 89

1923年関東地震に対する埼玉県内での詳細震度分布
武村雅之, 諸井孝文 90-105

古津波研究における地形学的観点の重要性: 十勝太
平洋岸の例 平川一臣, 中村有吾 106-107

17世紀に北海道太平洋岸で異常な巨大地震が発生し
た? 佐竹健治, 下川浩一, 穴倉正展,
沢井祐紀, Brian F. Atwater,
Brian Sherrod, Harvey Kelsey 108

1741年寛保津波は渡島大島の山体崩壊によって生じ
た 佐竹健治, 加藤幸弘 109

紀伊水道・豊後水道における安政南海地震津波の進
入特性 村上仁士, 上月康則, 倉田健悟,
杉本卓司, 吉田和郎 110-116

記録に基づく四国4県の歴史地震津波に関する被害
状況 山本尚明, 村上仁士, 島田富美男,
上月康則, 佐藤広章 117-126

沖縄におけるチリ地震津波(1960)の現地調査
加藤祐三, 謝花恭子 127-128

江戸時代・明治時代記録に見る宮城県沖地震の再帰
性 都司嘉宣 129

伝承から地震・津波の実態をどこまで解明できるか—貞
観十一年(689年)の地震・津波を例として—
渡辺偉夫 130-146

ビスカイノが見た慶長(1611年)三陸津波(続:概要)
渡辺偉夫 147

明治三陸津波(1896年)に関する一部, 捏造された史
料について 山下文男 148-155

明治・大正時代の地震資料の整理について
津村建四郎 156-157

庄内地震(1894)の被害と救済
北原糸子 158-161

秋田県南部~山形県沿岸の津波危険度
羽鳥徳太郎 162-168

天保四年(1833)出羽国沖地震津波の解明
都司嘉宣 169

東北地方日本海沿岸に発生する地震津波の波源と伝
播の特徴 樋渡康子, 佐藤魂夫, 今村文彦 170

鳥海山貞観十三年(871年)噴火で溶岩流は噴出した
か?—『日本三代実録』にあらわれた「二匹の大蛇」の
記録に関する検討—
林信太郎 171-175

文化元年(1804)象潟地震の謎—鳥海山は噴火した
か— 土岐田正勝 176-184

安政伊賀上野地震の顕著前震, および顕著余震
都司嘉宣 185-215

何千何百何十何行とはなにか?
茅野一郎 216-218

江戸末期の地震予知計
神戸新聞の記事 219

第18回歴史地震研究会に参加して
田良島哲 220-221

第18回歴史地震研究会の巡検参加記
松浦律子 222-224

甲午震災記念碑の解説文
北原糸子 225-226

庄内地震を描く絵巻「酒田大震災実況図」
北原糸子 227-228

第 18 号(2002)

歴史史料の「日記」の地震記事と震度について
宇佐美龍夫, 渡邊健, 八代和彦,
中村亮一 1-14

[講演要旨]歴史地震データによる確率的地震危険度
モデルの評価 島崎邦彦, ワヒュー・トゥリヨソ,
塚越芳樹 15

[講演要旨]地震史料にみる“空の赤気と白気立つ”現
象について 榎本祐嗣 16

[講演要旨]震度分布データから推定される歴史地震の
震源過程:東海・南海地震を例に
神田克久, 武村雅之, 宇佐美龍夫 17

江戸時代の千島海溝の地震活動を東北・関東の史料
から推定する 佐竹健治 18-33

『類聚国史』に書かれた 818 年の地震被害と赤城山の
南斜面に残る 9 世紀の地変跡
早川由紀夫, 森田悌, 中嶋田絵美,
加部二生 34-41

[講演要旨]地形・地質調査から明らかになった木曾谷
における 13 世紀頃の地震
宍倉正展, 遠田晋次, 荻谷愛彦,
永井節治, 二階堂学, 高瀬信一 42-43

天正地震(1586 年)時の飛騨白川郷における大規模山
体崩壊による庄川の堰き止めとその浸水域
坂部和夫 44-49

[講演要旨]旧湖岸線高度からみた堅田断層の活動履
歴
小松原琢, 水野清秀, 松山紀香,
細矢卓志, 徳田博明, 藤根久 50

[講演要旨]検地帳に寛文地震の地震痕跡を探す—本
堅田村延宝検地帳の分析—
北原糸子, 小松原琢 51

琵琶湖西岸地震(1662 年)と町居崩れによる天然ダムの
形成と決壊 今村隆正, 井上公夫, 西山昭仁 52-58

[講演要旨]元禄関東地震(1703)による江戸市中の被害・震度の詳細分布
都司嘉宣 59

宝永地震(1707)における大坂での震災対応
西山昭仁 60-72

[講演要旨]島原四月朔地震(1792)と島原大変—2
古賀省三, 村上博, 井上公夫,
角谷ひとみ, 今村隆正 73

三条地震(1828)に伴う異常現象—「小泉蒼軒文庫」か
ら— 河内一男 74-76

安政江戸地震(1855/11/11)の江戸市中の被害
中村操, 茅野一郎, 唐鎌郁夫,
松浦律子, 西山昭仁 77-96

1923 年関東地震に対する東京都 23 区内(旧郡部)での
詳細震度分布 武村雅之, 諸井孝文 97-115

台湾中部の地震により繰り返し発生する雲林県草嶺の
大規模崩壊 川邊洋, 林拙郎, 近藤観慈,
沼本晋也 116-122

有珠山 1663 年噴火と有珠bテフラに関する新発見
中村有吾, 平川一臣 123-126

宝永四年富士山噴火に先立って発生した地震の規模
の推定 林豊, 小山真人 127-132

富士山宝永噴火(1707)後の土砂災害
角谷ひとみ, 井上公夫, 小山真人,
冨田陽子 133-147

[講演要旨]鳥海山 1801 年噴火以前に存在したスパイ
ン?—古絵図にのこされた「不動石」の記録
林信太郎, 相澤幸之助 148

文献史料からみた済州島の 11 世紀噴火—東アジア漢
文史料の噴火叙述に関する予備的考察—
藤田明良 149-164

[講演要旨]根室半島および十勝沿岸の古津波堆積物
層序の比較とその意義
平川一臣, 中村有吾, 西村裕一 165

『津軽藩御国日記』の追加による寛保渡島沖津波
(1741)の詳細調査
今村文彦, 大窪慈生, 伴一彦,
高岡一章, 三宮明, 山木滋,
小林英次 166-175

三陸「津波石」実は「続石」
朝日新聞(2002 年 9 月 7 日)記事 176

明治三陸津波(1896)に関する「捏造津波石」問題始末
山下文男 177-180

『「捏造津波石」問題始末』を読んで
泊次郎 181-182

津波における「引き波の恐怖」—昭和和三陸津波の死者
数と行方不明者数の比率の意味するもの—
山下文男 183-187

沖縄における 1960 年チリ地震津波の現地調査(総括)
加藤祐三, 謝花恭子, 城間美佳,
渡辺康志 188-189

佐渡における津波の屈折効果
羽鳥徳太郎 190-199

人的被害規模に及ぼす津波防災施設の影響に関する考察 志方建仁, 杉本卓司, 村上仁士, 上月康則, 倉田健悟	200-206	天正地震(1586年)時の飛騨白川郷莊川村における大規模山体崩壊について 坂部和夫	47-51
徳島県浅川地区における次の南海地震津波襲来時の被害と避難行動に関する一考察 大谷寛, 佐藤広章, 村上仁士, 上月康則, 倉田健悟	207-214	[講演要旨]木曾谷で起こった13世紀頃の地震(続報)―濃ヶ池の出現・消失との関係― 宍倉正展, 永井節治, 二階堂学, 木曾教育会濃ヶ池調査研究会	52
地質学的手法(潜水, 堆積物, 地質構造調査)に基づいた日本海東縁海域の海底活断層調査の試み 岡村行信, 池原研, 荒井晃作, 七山太, 竹内章, 佐竹健治, 中嶋健	215-220	震度分布にもとづく江戸時代の4地震の震源域と規模の再検討(概報):1662年日向灘・1769年日向・豊後・1847年善光寺地震・1861年宮城の4地震について 松浦律子, 中村操, 茅野一郎, 唐鎌郁夫	53-61
富山深海海底谷最下流部の海底地形 岡村行信, 佐竹健治, 竹内章	221-225	[講演要旨]善光寺地震(1847)池田組大絵図に描かれた土砂災害の紹介 長井義樹, 井上公夫, 飯沼達夫, 今村隆正	62
[学会報告]イタリアにおける歴史地震学の国際ワークショップ 石橋克彦, 北原糸子, 佐竹健治	226	[講演要旨]重カブーゲー異常と震度との関係―1847年善光寺地震の場合― 宇佐美龍夫, 渡邊健, 八代和彦, 中村亮一	63-64
[報告]第19回歴史地震研究会に参加して 宮下由香里	227-228	信濃川下流域・河口北方沖合の地震テクトニクスと地震発生の長期予測 河内一男	65-71
[報告]第19回歴史地震研究会の巡検見学会 井上公夫, 今村隆正, 國香正稔, 菊川茂	229-238	防災活動に捧げた金原明善の生涯―特に濃尾地震(1891)後の現地調査写真の紹介― 今村隆正, 井上公夫	72-79
第19回歴史地震研究会プログラム	239-240	寛政五年(1793)宮城県沖に発生した地震の詳細震度分布と津波の状況 行谷佑一, 都司嘉宣, 上田和枝	80-99
第19号(2003)		[講演要旨]震度データのインバージョン解析による明治以後宮城県沖で発生した地震の分類 武村雅之, 神田克久	100
1677年延宝房総沖津波の波高偏差 羽鳥徳太郎	1-7	大正三年桜島噴火に先立って発生した地震の規模の推定 林豊	101-107
元禄地震(1703)とその津波による千葉県内各集落での詳細被害分布 都司嘉宣	8-16	被害想定のための歴史地震面震源モデル調査 吉村昌宏, 坪川博彰, 藤原賢也	108-115
千葉県市川市原木の『大屋家日記』に記された地震記録 都司嘉宣	17-28	安政南海地震(1854)における大坂での震災対応 西山昭仁	116-138
[講演要旨]1703年元禄関東地震に伴う地殻上下変動と過去の関東地震 宍倉正展	29	徳島市における昭和南海地震の被害様相再現へのアプローチ 大谷寛, 村上仁士, 上月康則	139-145
[講演要旨]大正関東地震による千葉県内での詳細震度分布と今後の地震 武村雅之	30	津波浸水時における人的被害に及ぼす門扉閉鎖の影響に関する一考察 志方健仁, 村上仁士, 上月康則, 杉本卓司	146-152
[講演要旨]堆積物からみた南関東におけるプレート間地震の再来間隔 藤原治, 鎌滝孝信	31		
安政江戸地震の首都圏での被害 中村操, 茅野一郎, 松浦律子	32-37		
富士山宝永噴火の降灰域縁辺における状況推移を記録する良質史料『伊能景利日記』と伊能景利採取標本 小山真人, 西山昭仁, 井上公夫, 角谷ひとみ, 富田陽子	38-46		

瀬戸内海の歴史南海地震津波について 山本尚明	153-160	『外宮子良館日記』に記録された有感地震について— 本州中部で記された他の日記との比較— 都司嘉宣, 伊藤純一, 上田和枝	23-32
日本近海における津波地震および逆津波地震の分布 (序) 渡辺偉夫	161-164	宝永(1707)・安政東海(1854)地震津波の三重県におけ る詳細津波浸水高分布 行谷佑一, 都司嘉宣	33-56
三陸海岸・田老町における「津波防災の町宣言」と大防 潮堤の略史 山下文男	165-171	伊勢湾岸市街地における安政東海津波(1854)の浸水 状況 羽鳥徳太郎	57-64
[講演要旨]津波堆積物・津波計算からみた北海道東 部の歴史地震 佐竹健治, 七山太, 山木滋	172	文化五年十月十七日(1808.12.4)四国・紀伊半島で記 録された小津波 伊藤純一	65-73
[講演要旨]津波堆積物の特徴からみた北海道東部太 平洋岸の歴史津波の特性 西村裕一, 平川一臣, 中村有吾, 宮地直道, 小松正義	173	1944年東南海地震により発生し静岡県西部地方と三重 県南部地方で記録された地鳴りの方向性 青島晃, 土屋光永, 中野幸子, 野嶋宏二, 松井孝友	75-89
[講演要旨]津波は陸上遡上時にどのような痕跡を残す のか?—堆積学的手法に基づく北海道沿岸域の検討 例— 七山太	174	被災体験の絵画化による災害教訓抽出・整理手法の提 案—1944年東南海地震・1945年三河地震を事例とし て— 木村玲欧, 林能成	91-104
[研究紹介]カムチャッカ半島東部の津波痕跡 —The International Workshop “LOCAL TSUNAMI WARNING AND MITIGATION” 2002 参加報告— 七山太	175	[講演要旨]三重県鳥羽市相差の完新世湿地堆積物の イベント層序 吉川周作, 岡橋久世, 三田村宗樹, 廣瀬孝太郎	105
タービダイトから推定される日本海東縁佐渡島北方海 域の地震発生ポテンシャル(序報) 中嶋健	176-179	[講演要旨]鳥羽市相差の湿地堆積物に見出される津 波イベント堆積物 岡橋久世, 秋元和実, 吉川周作, 廣瀬孝太郎	106
[講演要旨]李朝肅宗七年(1681)韓国東海岸の地震に よる雪岳山神興寺継祖窟付近の岩石崩落痕跡 秋教昇, 都司嘉宣	180	[講演要旨]1605年慶長地震のメカニズム 安藤雅孝, Besana Glenda	107-108
歴史地震の西暦表記について 茅野一郎	181-182	[講演要旨]安政南海地震における徳島市の被害 大谷寛, 村上仁士, 上月康則	109
[報告]第20回歴史地震研究会参加記 行谷佑一	183-184	[講演要旨]宝永(1707)・安政東海(1854)地震津波の 三重県における集落別詳細震度分布 都司嘉宣, 行谷佑一, 伊藤純一	110
[報告]第20回歴史地震研究会に参加して 松本浩幸	185-186	[講演要旨]安政伊賀上野地震(1854)による三重県内 の集落別詳細被害・事象分布 中村操, 都司嘉宣	111-112
第20回歴史地震研究会プログラム	187-188	[講演要旨]1946年南海地震の時の愛媛県道後温泉と 和歌山県湯峯温泉の変化について 小泉尚嗣, 佐藤努, 中林憲一	113
第20号(2005)		[講演要旨]2004年9月5日の紀伊半島沖の地震活動 について 林豊	114
[講演記録]東海・東南海地震と三重県 安藤雅孝	1-2	[講演要旨]2004年紀伊半島南東沖地震の震源過程 山中佳子	115
[講演記録]三重県の歴史地震と津波 都司嘉宣	3-7		
[講演記録]1498年明応東海地震の津波被害と中世安 濃津の被災 矢田俊文	9-12		
[講演記録]志摩国(現鳥羽市・志摩郡)の津波記録につ いて 村山眸	13-21		

[講演要旨]2004年9月5日に発生した2つの紀伊半島南東沖の地震について 名古屋大学災害対策室, 名古屋大学環境学研究科附属地震 火山・防災研究センター 116	元禄地震(1703)と富士山宝永噴火(1707)による土砂災害と復興過程—神奈川県山北町における最近の史料学・考古学的成果による再検討— 井上公夫 247-255
[講演要旨]2004年9月5日紀伊半島南東沖地震による三重県の地震, および津波被害—海岸調査, および新聞記事の収集調査結果— 行谷佑一, 都司嘉宣, 伊藤純一, 高橋智幸, 今井健太郎, 富岡展行 117	活断層調査と文献史料から推定した寛文二年(1662)若狭・近江地震の起震断層と震源過程 西山昭仁, 小松原琢, 東幸代, 水野章二, 北原糸子, 武村雅之, 寒川旭 257-266
1596年慶長豊後地震に伴う津波の波源推定 石辺岳男, 島崎邦彦 119-131	[講演要旨]17-21世紀の十勝沖地震の震源域 佐竹健治, 山木滋 267
慶長九年十二月十六日(1605.2.3)の津波の房総における被害の検証 伊藤純一, 都司嘉宣, 行谷佑一 133-144	[講演要旨]1923年関東地震の津波波形解析 谷岡勇市郎, 佐竹健治 268
続・津波における「引き波の恐怖」—明治三陸津波1周年後の岩手県「海嘯始末ニ付申報」について— 山下文男 145-147	[講演要旨]歴史津波再現時における数値シミュレーション精度の問題点 宮本大輔, 村上仁士, 上月康則, 吉田和郎 269
津波痕跡高資料のデジタル化について—1896年明治三陸・1933年昭和三陸津波を例として— 鈴木介, 今村文彦, 首藤伸夫 149-154	[講演要旨]日本の津波から推定された1700年の北米カスケード地震:その後の発展 Brian Atwater, 六角聡子, 佐竹健治, 都司嘉宣, 上田和枝, David Yamaguchi 270
数値シミュレーションを活用した明治・昭和三陸津波の岩手県沿岸における痕跡資料の検証 竹内仁, 村嶋陽一, 今村文彦, 首藤伸夫, 吉田健一 155-163	[講演要旨]象潟地震など江戸時代の6地震の規模再検討結果 松浦律子, 中村操, 茅野一郎, 唐鎌郁夫 271
溺死者の最多は子供と老年世代—昭和三陸津波と北海道南西沖地震津波の場合— 山下文男 165-167	[講演要旨]領主別被害合計資料から被害が起きた個々の集落を推定する方法—元禄地震(1703)の詳細震度分布推定研究への応用— 都司嘉宣, 上田和枝, 伊藤純一 272
韓半島で発生した最大級の地震—1681年6月韓国東海岸地震— 秋教昇, 朴昌業, 都司嘉宣 169-182	[講演要旨]三重県伊勢・長野県下伊那などの西方遠隔地で書かれた1707年富士山宝永噴火の目撃記録 小山真人, 西山昭仁 273
北海道における津波に関するアイヌの口碑伝説と記録 清水康博 183-199	[講演要旨]江戸(東京)における毎年の有感地震回数の変遷 宇佐美龍夫, 渡邊健 274
1900年および1962年宮城県北部地震の被害データと震度分布 武村雅之 201-221	[講演要旨]石塔による地震被害調査の可能性について—横浜外人墓地の被害など— 中村亮一 275
安政江戸地震(1855)の江戸市中の焼失面積の推定 中村操, 茅野一郎, 松浦律子 223-232	[講演要旨]寛文二年(1662)近江・若狭地震における震災への対応と影響 西山昭仁, 東幸代, 水野章二, 北原糸子, 小松原琢 276
1828年越後三条地震の地変等の記事について 植竹富一, 中村亮一, 宇佐美龍夫, 渡邊健 233-242	[報告]第21回歴史地震研究会参加記(研究発表会を中心に) 白石陸弥 277-278
天正地震(1586年)時の岐阜県上矢作町荒における大規模山体崩壊について 坂部和夫 243-246	[報告]第21回歴史地震研究会参加記(野外見学会を中心に) 東幸代 279-280
	第21回歴史地震研究会プログラム 281-284

第 21 号(2006)

元禄十六年十一月二十三日(1703年12月31日)南関東地震による東京都の詳細震度分布

都司嘉宣, 上田和枝, 行谷佑一,
伊藤純一 1-18

『秘日記』から見た安政江戸地震

白石睦弥 19-35

東京湾・浦賀水道沿岸の元禄関東(1703)、安政東海(1854)津波とその他の津波の遡上状況

羽鳥徳太郎 37-45

1923年関東地震における死者発生のプロセス—1855年安政江戸地震との比較をふまえて—

諸井孝文, 武村雅之 47-58

[講演要旨]江戸時代の震度計—震動の客観的基準を必要とした人々—

伊藤純一 59

[講演要旨]江戸(東京)における毎年の有感地震回数の変遷(第2報)

宇佐美龍夫・渡邊健 60

[講演要旨]安政江戸地震について

中村操, 松浦律子, 白石睦弥 61-62

[講演要旨]関東のプレート構造と安政江戸地震の震源

遠田晋次, 中村亮一, 宍倉正展,
William H. Bakun, Ross S. Stein 63

[講演要旨]明治東京地震の震源像と強震動

古村孝志, 中村操, 室谷智子,
山中佳子 64

小笠原諸島の津波史

都司嘉宣 65-79

九州北部近海の歴史地震と仮定津波の伝播図

羽鳥徳太郎 81-86

1960年チリ地震震源域でくり返し生じた過去の巨大地震

Marco Cisternas, Brian Atwater,
鎌滝孝信, 澤井祐紀, 宍倉正展
87-91

南海・駿河および相模トラフ沿岸域における津波堆積物

小松原純子, 藤原治, 鎌滝孝信
93-109

自然現象記録媒体としての中世史料『吾妻鏡』の特性分析

生島佳代子, 小山真人 111-120

北海道における地震に関するアイヌの口碑伝説と歴史記録

新里忠史, 重野聖之, 高清水康博
121-136

活断層周辺の地震活動からみた固有地震説

石辺岳男, 島崎邦彦 137-152

『言経卿記』に見る文禄五年伏見地震での震災対応—特に「和歌を押す」行為について—

松岡祐也 153-164

寛文二年(1662)近江・若狭地震における京都盆地での被害状況

西山昭仁, 小松原琢 165-171

震度分布性状から見た1828年三条地震の断層モデルの評価

徳光亮一, 菅原正晴, 植竹富一
173-180

1828年三条地震の絵図『懲震毖鑑』の示す地震の状況

渡邊健, 植竹富一, 中村亮一,
宇佐美龍夫 181-190

1833年(天保4年)加賀藩輪島町における津波被害について—能登輪島住吉神社文書を中心に—

大林綾 191-199

寺院の被害記録から見た安政東海地震(1854)の静岡県内の震度分布

行谷佑一, 都司嘉宣 201-217

小藤論文の濃尾地震根尾谷断層写真について

榎本祐嗣 219-222

1945年三河地震による災害と海軍基地の対応について

林能成, 木村玲欧 223-233

1945年三河地震の被災者心理と行動パターン—災害発生後100時間

失見当, 救助・救出, 安否確認—
木村玲欧, 林能成 235-244

[講演要旨]慶長豊後地震の波源推定(続報)

石辺岳男, 島崎邦彦, 岡村眞,
松岡裕美, 千田昇 245

[講演要旨]石垣島南部(四箇・平得・真栄里・大浜)における1771年明和津波の遡上高〜とくに戸高に関連して〜

河名俊男, 島袋永夫, 中田高,
正木譲, 島袋綾野 246

[講演要旨]天正地震(1586年)時の岐阜県郡上市高鷲町における大規模山体崩壊について

坂部和夫 247

[講演要旨]伊賀上野地震(1854)と南山城水害(1953)の土砂災害の比較検証

井上公夫, 今村隆正, 笠原亮一 248

[講演要旨]明治庄内地震の集落別被害と微地形

小松原琢 249

[講演要旨]津波による被災状況を取り入れた避難ゲームの開発

大谷寛, 宮本大輔, 上月康則,
村上仁士 250

[講演要旨]歴史地震データを利用した地震危険度評価の検証手法

中村亮一, 島崎邦彦, Wahyu Triyoso
251-252

[講演要旨]巨大地震の連動性と発生間隔の変化のメカニズム 堀高峰 253	関東地域の三次元減衰構造・異常震域とそれに基づく 1855年安政江戸地震の震源深さの推定 中村亮一, 植竹富一, 佐竹健治, 遠田晋次, 宇佐美龍夫, 島崎邦彦, 渡邊健 101-107
[講演要旨]安政東海地震(1854-a)および安政南海地震(1854-b)の武者史料のピンポイント・データベース化 都司嘉宣, 伊藤純一 254	1923年関東地震における死者発生のプロセス(その2) —旧横浜市での人的被害の発生状況— 諸井孝文, 武村雅之 109-115
[講演要旨]江戸時代の歴史地震の震源域・規模の再検討作業—7年間の成果中間報告— 松浦律子, 中村操, 茅野一郎, 唐鎌郁夫 255-256	1945年三河地震における事前避難について 林能成, 木村玲欧 117-126
[講演要旨]「理科年表・日本付近のおもな被害地震年代表」の変遷 瀬瀬一起, 吉井敏尅 257	1945年三河地震の被災地社会の変遷と被災者心理・ 行動パターン—災害発生後1000時間 すまいとくらし の再建— 木村玲欧, 林能成 127-143
第22回歴史地震研究発表会プログラム 259-260	宮城県沖津波による伝播の屈折効果 羽鳥徳太郎 145-150
第22号(2007)	南千島～北海道東部間の歴史津波の規模と波源域 羽鳥徳太郎 151-155
[報告]第23回歴史地震研究会の報告 歴史地震研究会幹事会 1	プレート間地震から見た固有地震説 石辺岳男, 島崎邦彦 157-167
[講演記録]インド洋津波被害と教訓 今村文彦 3-7	『津波いろは歌留多』について 山下文男, 小松原琢 169-174
[講演記録]住民の早期避難の問題点～宮城県沖地震の教訓から～ 佐藤健一 9-12	瀬戸内海における自治体の津波危険度に関する考え方 およびその対応について—香川県の場合— 山本尚明 175-186
[講演記録]大船渡市の津波対策～江戸時代までの三陸・遠地津波を考慮して～ 都司嘉宣 13-18	2006年インドネシア・ジョグジャカルタ地震のメカニズム と被害 安藤雅孝, Irwan Melano, 木股文昭, 奥田隆, 田所敬一, 中道治久, 武藤大介, Hasanuddin Z. Abidin, Bambang Setyadji, Mipi A. Kusuma, Heri Andreas, M. Gamal, Arif Rahman 187-193
[講演記録]明治・昭和和三陸津波の歴史的教訓 山下文男 19-24	体験談に基づく昭和南海地震の震度評価とそのばらつき 黒崎ひろみ, 中野晋, 大奈健, 川田一昭, 村上仁士 195-202
寛文二年(1662)近江・若狭地震における都市被災地の社会的・自然的条件—京都盆地・伏見の事例— 小松原琢, 西山昭仁 25-43	[講演要旨]大阪府における宝永地震(1707), および安政南海地震(1854)の詳細震度分布 都司嘉宣 203
1670年寛文越後西蒲原地震について 河内一男 45-52	[講演要旨]江戸時代の歴史地震の震源域・規模の再検討作業—飛越地震など8地震について 松浦律子, 中村操, 唐鎌郁夫 204
延宝房総沖地震津波の千葉県沿岸～福島県沿岸での痕跡高調査 竹内仁, 藤良太郎, 三村信男, 今村文彦, 佐竹健治, 都司嘉宣, 宝地兼次, 松浦健郎 53-59	[講演要旨]震度データから歴史地震の震源過程を考える 武村雅之 205-206
西方遠隔地(三重県伊勢, 長野県下伊那)で書かれた1707年富士山宝永噴火の目撃記録 小山真人, 小川聡美, 西山昭仁 61-83	[講演要旨]1933年昭和和三陸地震による関東平野の長周期地震動 植竹富一, 野田厚子 207
田井家『震潮記』にみる徳島県穴喰の地震・津波について～1854年安政南海地震を対象に～ 井若和久, 田邊晋, 大谷寛, 上月康則, 村上仁士 85-94	[講演要旨]東南海地震・南海地震の関東での揺れの再現 中村操, 古村孝志, 早川俊彦, 馬場俊孝 208
震度データを用いた震源深さの決定の可能性—三次元減衰構造を用いた検討— 中村亮一, 八代和彦, 植竹富一 95-100	

[講演要旨]堆積物から復元した宮城県中南部における貞観津波の浸水域 澤井祐紀, 宍倉正展, 岡村行信, 松浦旅人, Than Tin Aung, 小松原純子, 藤井雄士郎 209	明治以降の日本の噴火・火山性異常カタログの時間的均質性 林豊 27-32
[講演要旨]1960年チリ地震に伴う余効変動—過去45年間の上下変動量— 宍倉正展, Cristian Youlton, 澤井祐紀 210	アンケート調査から推定した1944年東南海地震による三重県南部の津波到達時間 青島晃, 土屋光永, 中野幸子, 野嶋宏二, 松井孝友 33-41
[講演要旨]関東地方沿岸の「謎の津波」—慶長(1605)と延宝(1677)の房総沖津波の新史料— 伊藤純一, 都司嘉宣 211	1931年ホークスベイ地震の被害と復興—ネーピアの事例— 植村善博 43-50
[講演要旨]歴史上に起きた三陸沖, および宮城県沖地震の震度・津波浸水高分布の特徴 都司嘉宣, 行谷佑一, 伊藤純一 212	鎌倉期から江戸初期における地震災害情報—畿内で書かれた日記にみる地震の記憶— 下川雅弘 51-62
[講演要旨]関東大震災の写真と地図のデータベース 北原糸子, 諸井孝文 213	1854年安政南海地震津波, 大阪への伝播時間と津波遡上高 長尾武 63-79
[講演要旨]岩手県大船渡市碓石浜の津波堆積物 原口強, 呉屋健一, 今泉俊文 214	元禄関東地震の断層モデルと外房における津波 佐竹健治, 宍倉正展, 行谷佑一, 藤良太郎, 竹内仁 81-90
[講演要旨]文禄五年伏見地震での伏見城下武家地の被害状況 松岡祐也 215	2007年能登半島地震による建物被害および気象庁震度との関係—過去の地震との比較を通して— 諸井孝文, 釜田正毅, 池田孝 91-100
[講演要旨]元禄地震(1703)における江戸での震災対応 西山昭仁 216	善光寺地震による虫倉山周辺, 特に臥雲院付近の地すべり災害—当時の絵図と古文書から土砂災害の状況を探る— 井上公夫 101-109
[講演要旨]災害写真—19世紀末から20世紀へ 北原糸子 217	徳島県沿岸海域における安政南海地震津波(1854)の流動特性の再現—宍喰・鞆浦沿岸海域を対象に— 田邊晋, 井若和久, 山中亮一, 上月康則, 村上仁士 111-120
[講演要旨]火山警戒避難のゲーミングシミュレーション「リブラ2—ありす火山の噴火—」 林信太郎, 赤塚綾, 伊藤英之 218	徳島県鳴門市周辺における安政南海地震の震度分布 井若和久, 田邊晋, 山中亮一, 上月康則, 松下恭司, 村上仁士 121-130
[報告]歴史地震研究会に参加して 黒崎ひろみ 219	人間の津波認知から明らかになった避難のあり方—1944年東南海地震・被災者体験談をもとにして— 木村玲欧 131-141
[報告]第23回歴史地震研究会参加記(野外見学会について) 大浦瑞代 220-222	[講演要旨]江戸時代の歴史地震の震源域・規模の再検討作業—1718年伊那の地震など8地震について 松浦律子, 中村操, 唐鎌郁夫 143
[研究会記事]歴史地震研究会だより 2006年9月～2007年3月 歴史地震研究会幹事会 223-241	[講演要旨]1854年安政南海地震震度分布の経験的グリーン関数法による検討 行谷佑一, 都司嘉宣, 額綱一起, 三宅弘恵 144
第23号(2008)	[講演要旨]連続震災における災害対応課題の発見—1944年東南海地震と1945年三河地震の事例から— 林能成, 木村玲欧 145
口絵(本文88頁参照)	[講演要旨]歴史地震の地震タイプの分類について 中村亮一, 島崎邦彦 146
伊豆半島沿岸の津波累積エネルギー分布 羽鳥徳太郎 1-6	
震度データによる短周期地震波の震源推定 武村雅之, 神田克久 7-19	
南海トラフ沿いに起きた歴史地震に伴う隆起を記録した紀伊半島南部沿岸の生物遺骸群集 宍倉正展, 越後智雄, 前杵英明, 石山達也, 永井亜沙香 21-26	

[講演要旨]1855年安政江戸地震の被害について 中村操, 松浦律子, 南雲秀樹, 山田眞	147
[講演要旨]宝永地震(1707)における大坂での被害と その地理的要因 西山昭仁, 小松原琢	148
[講演要旨]寛政西津軽地震・津波による津軽西海岸地 域の被害と地形変化 白石睦弥	149
[講演要旨]越後平野で発生してきた被害地震とその縁 辺に配列する活断層との関係 河内一男	150
[講演要旨]群列ジオスライサー調査に基づく琵琶湖西 岸断層帯南部の最新活動時期—1185年元暦京都地 震時活動説を裏づける地形・地質学的証拠— 金田平太郎, 木下博久, 小松原琢	151
[講演要旨]1933年昭和三陸地震の地震記象と2005年 11月15日三陸沖の地震による強震記録の比較 植竹富一, 野口厚子	152
[講演要旨]明治三陸地震津波による青森県三沢市域 の被害史料 渡邊健, 宇佐美龍夫	153
[講演要旨]明治三陸津波(1896)による綾里・白浜での 津波駆け上がり地点を巡る誤解と誤報を正す 山下文男	154
[講演要旨]静岡県掛川市南部の横須賀城址周辺の地 層に見られる1707年宝永地震の痕跡 藤原治, 小野映介, 佐竹健治, 澤井裕紀, 海津正倫, 矢田俊文, 阿部恒平, 池田哲哉, 岡村行信, 佐藤善輝, ThanTin Aung, 内田淳一	155
[講演要旨]元禄関東地震(1703)の神奈川県・静岡県 内詳細震度分布 都司嘉宣, 小野友也	156
[報告]大船渡市洞雲寺内の明治三陸津波[1896・6・15] の犠牲者を弔う『丙申大海嘯溺死者諸精霊等』に就い て 山下文男	157-171
[報告]『日記』から推測した弥生期の由布および九重火 山の活動 桜井貴子	172-190
[報告]元禄地震(1703)における相模湾沿岸での津波 高さ 小野友也, 都司嘉宣	191-200
[報告]第24回歴史地震研究会参加記 村岸純	201-202
[報告]第24回歴史地震研究会に参加して 野口厚子	203

写真 2007年巡検参加者の集合写真	204
[研究会記事]歴史地震研究会だより2007年4月～ 2008年3月 歴史地震研究会幹事会	205-227

第24号(2009)

口絵(本文69頁参照)

伊豆半島南端の入間に伝承された1854年安政東海地 震による津波堆積物の掘削調査 藤原治, 平川一臣, 阿部恒平, 入月俊明	1-6
20世紀初頭に九州・南西諸島のサブダクション帯で発 生した2つの地震の震度分布と地震規模 武村雅之, 神田克久, 阿比留哲生, 原弘明	7-31
十勝沖～千島列島間の津波による三陸沿岸の波高偏 差 羽鳥徳太郎	33-39
三陸大津波による遡上高の地域偏差 羽鳥徳太郎	41-48
『東国旅行談』巻之五に見える恐山の「火」の記録 林信太郎	49-51
関東地震(1923)時の震災地応急測図原図と土砂災害 井上公夫, 笠原亮一	53-64
1854年安政東海地震の静岡県南部の被害と表層地質 中村操	65-82
石灯籠の破損から見た善光寺地震(1847)の震動 赤羽貞幸, 原田慎太郎, 桑原夏美, 菅野真司	83-90
堺市・『擁護壘』, 神から賜った壘 長尾武	91-100
1923年関東地震における死者発生プロセス(その3)— 千葉県安房郡の住家全潰による死者発生率— 諸井孝文, 武村雅之	101-109
震度分布に基づく1751年越後・越中の地震の断層モ デルの評価 菅原正晴, 植竹富一	111-119
自然現象記録媒体としての静岡県沼津の中近世史料 『大平年代記』の特性分析 遠藤恵, 小山真人	121-128
元禄関東地震による房総南部の地震時および地震後 の海岸環境変化 村岸純	129-143
[講演要旨]幕末期の京都における災害対応—伊賀上 野地震(1854年)と元治大火(1864年)を中心に— 西山昭仁	145
[講演要旨]寛保津波の被害と北方諸藩の対応 白石睦弥	146

[講演要旨]三重県南部における1944年東南海地震被災体験談の収集 林能成, 木村玲欧, 大原祐一, 荒川智也 147	[講演要旨]「天災日記」:鹿島龍蔵と関東大震災 武村雅之 163
[講演要旨]個人の被災体験を教訓化し防災教育教材にする試み~1944年東南海地震・1945年三河地震を事例として 木村玲欧, 林能成 148	[講演要旨]「関東大震災・地図と写真のデータベース」作成にあたって 北原糸子 164
[講演要旨]地震に備えて私たちができること 今村隆正, 角谷ひとみ, 大石雅之, 高田郁 149	[講演要旨]日本における災害航空写真の登場について 王京 165
[講演要旨]日本の大規模崩壊は地震でどのくらい発生しているのか 今村隆正, 大石雅之, 角谷ひとみ 150	[講演要旨]関東大震災における火災延焼と避難について 西田幸夫 166
[講演要旨]元禄関東地震(1703)の津波記録・地震記録および震度分布にもとづく断層モデルの考察 小野友也, 都司嘉宣 151	[講演要旨]能登半島北西部の隆起生物遺骸群集に記録された最近1000年間の地震履歴 宍倉正展, 越後智雄, 行谷佑一 167
[講演要旨]測地データによる1945年三河地震断層モデルの再検討 高野和友, 木股文昭 152	[講演要旨]三浦半島小網代湾干潟の津波堆積物 島崎邦彦, 金幸隆, 千葉崇, 石辺岳男, 都司嘉宣, 岡村眞, 松岡裕美, 行谷佑一, 佐竹健治, 今井健太郎, 泊次郎 168
[講演要旨]錦におけるオンサイト型津波避難システムとその歴史・科学的背景 木股文昭, 田中重好, 高橋誠 153	[講演要旨]東海道白須賀宿付近の堆積物に記録された歴史時代の津波と高潮 小松原純子, 藤原治, 高田圭太, 澤井祐紀, Than Tin Aung, 鎌滝孝信 169
[講演要旨]江戸時代の歴史地震の震源域・規模の再検討作業—安政五・六年石見の地震等10地震について 松浦律子, 中村操, 唐鎌郁夫 154	[報告]『日本書紀』から推測した7世紀の火山活動 桜井貴子 171-180
[講演要旨]フィリピン海プレートの形状を考慮した元禄関東地震の断層モデルと外房の津波 行谷佑一, 佐竹健治, 宍倉正展, 藤良太郎, 竹内仁 155	[報告]発光現象を伴った津波の巨大化メカニズムの一考察—1946年南海地震津波の事例から— 榎本祐嗣, 安田英典 181-184
[講演要旨]明治時代の灯台の地震観測資料について 津村健四朗 156	[報告]安政東海地震・南海時地震(1854)に伴う日月異常と火柱現象について 都司嘉宣 185-192
[講演要旨]宮崎県の古公文書に遺された明治時代の地震記録 渡邊健 157	[報告][略年表]「15年戦争」と日本地震学辛酸の軌跡 山下文男 193-199
[講演要旨]震源域の地震活動からみた地震の繰り返し挙動 石辺岳男, 中谷正生, 鶴岡弘, 島崎邦彦 158	[報告]歴史地震研究会のアウトリーチについて 歴史地震研究会幹事会 200
[講演要旨]プレート境界地震の再来間隔の規模依存性とそのモデル化 堀高峰, 宮崎真一 159	[特別講演概要]近代測量によって明らかになった大正関東地震の地震像と現在の関東地方の地殻変動 西村卓也 201
[講演要旨]1670年西蒲原地震は1828年三条地震の一つ前の地震か 河内一男 160	[特別講演概要]未曾有の大災害に学ぶ 武村雅之 202
[講演要旨]天明相模の地震および嘉永小田原地震の被害と震源位置 植竹富一, 野口厚子, 中村操 161	[特別講演概要]地形が語る過去の関東地震 宍倉正展 203
[講演要旨]1925年サンタバール地震の被害と復興過程 植村善博 162	写真 第25回歴史地震研究発表会の懇親会にて 204
	[研究会記事]歴史地震研究会だより 2008年4月~2009年4月 歴史地震研究会幹事会 205-228

第 25 号(2010)

- 口絵 1 (本文 32 頁参照)
 口絵 2 (本文 44 頁参照)
 口絵 3 (本文 46 頁参照)
- 1914(大正 3)年秋田仙北地震の被害データと震度分布
 武村雅之, 高橋裕幸, 津村建四朗
 1-27
- 1498 年明応地震による遠州灘沿岸浜名川流域の地形
 変化—掘削調査による地質学的検討—
 藤原治, 小野映介, 矢田俊文,
 海津正倫, 佐藤善輝,
 Vanessa Heyvaert 29-38
- 天明相模の地震及び嘉永小田原地震の被害分布と震
 源位置 植竹富一, 野口厚子, 中村操 39-62
- 1900 年以降の宮城県北部の内陸地震の震度による短
 周期地震波発生域と地震規模の推定
 神田克久, 武村雅之 63-74
- 歴史津波からみた若狭湾岸の津波の挙動
 羽鳥徳太郎 75-80
- 寛文 10 年(1670)四万石の地震の再考
 宇佐美龍夫, 植竹富一, 渡邊健,
 中村亮一 81-90
- [資料]神奈川県平塚市での関東大震災の跡—慰霊碑
 巡礼の記録 武村雅之, 篠原憲一 91-100
- [講演要旨]姉川地震の震災写真を使った展示による
 防災アピール 里口保文, 小松原琢 101-102
- [講演要旨]絵画によって子どもの「気づき」を誘発する
 環境防災教育手法の提案
 木村玲欧, 岩月佐江子, 藤田哲也,
 阪野智啓 103-104
- [講演要旨]先人の教えに学ぶ四国防災八十八話～地
 震事例について～
 松尾裕治, 中野晋, 山本基,
 鳥居謙一, 村上仁士 105
- [講演要旨]地震研究所に保存されている鳥取・東南
 海・三河・南海・福井地震のアンケート調査資料
 津村建四朗, 野口和子, 鷹野澄
 106-107
- [講演要旨]活断層評価における歴史地震解析結果の
 役割について 松浦律子 108-109
- [講演要旨]トレンチ調査に基づく濃尾断層帯, 武儀川
 断層の最新活動時期と歴史地震—1289 年(正応二年)
 地震に関する越波集落の伝承—
 金田平太郎, 佐護浩一 110-111
- [講演要旨]近畿地方の地震活動についての研究史
 中村正夫 112
- [講演要旨]江戸時代の歴史地震の震源域・規模の再
 検討作業—文化 9・11 年土佐の地震等 5 地震について
 松浦律子, 中村操, 唐鎌郁夫 113
- [講演要旨]安政東海地震(1854)による江戸及び関東
 全域の震度分布
 松岡祐也, 都司嘉宣 114
- [講演要旨]歴史津波浸水標高データの史料からみた
 再検証 都司嘉宣, 松岡祐也, 今村文彦 115
- [講演要旨]三浦半島における津波堆積物調査から推
 定される関東地震の発生履歴
 島崎邦彦, 金幸隆, 石辺岳男,
 都司嘉宣, 佐竹健治, 今井健太郎,
 泊次郎, 千葉崇, 須貝俊彦, 岡村眞,
 松岡裕美, 藤原治, 行谷佑一
 116-117
- [講演要旨]過去の大地震による静的クーロン応力変化
 と近年の地震活動の相関性について
 石辺岳男, 島崎邦彦, 鶴岡弘,
 佐竹健治 118
- [講演要旨]1935 年静岡地震の断層モデルの再検討
 林能成, 小澤邦雄 119
- [講演要旨]1891 年濃尾地震にみる文化財建造物の被
 害 佐藤弘美, 黒崎ひろみ 120-121
- [講演要旨]1891 年濃尾地震を中心とした過去の地震
 災害がもたらした経済変化
 黒崎ひろみ, 佐藤弘美, 中野晋,
 村上仁士 122-123
- [講演要旨]関東大震災における米神・根府川(神奈川
 県足柄下郡片浦村)の被害総数
 武村雅之 124
- [講演要旨]1703 年元禄関東地震による海岸環境変化
 の影響—房総半島南部を事例として
 村岸純 125
- [講演要旨]史料にもとづく享和 2 年(1802)佐渡小木地
 震の沈降域の推定と断層モデルの考察
 中村亮一, 植竹富一, 宇佐美龍夫,
 渡邊健 126
- [講演要旨]宝暦佐渡沖地震の震央の修正とその意味
 河内一男 127
- [講演要旨]安政東海地震・南海地震(1854)による河川
 閉塞, 新湖出現記録
 都司嘉宣 128
- [講演要旨]『越後国頸城郡高田領往還破損所絵図』に
 見る高田大地震(1751)の災害状況
 今村隆正, 高野繁昭, 角谷ひとみ,
 高田郁 129

[講演要旨]岩木山と災害対応—硫黄山出火を中心に— 白石睦弥	130
[講演要旨]『玄与日記』に記された文禄五年(1596)豊後地震による周防国上関の津波被害 松岡祐也, 今村文彦, 都司嘉宣	131
[講演要旨]南史に痕跡の残る謎の大噴火とその日本史への影響 桜井貴子	132-133
[講演要旨]八ヶ岳大月川岩層なだれ(887)によって形成され, 302 日後に決壊した天然ダム 井上公夫	134-135
[講演要旨]13 世紀古記録にもとづく未知の東海・南海地震の発生時期検討 高柳夕芳, 小山真人	136-137
[講演要旨]町居崩れ 今村隆正	138
[講演要旨]岩木山信仰と領主権力—硫黄山出火と、その影響— 白石睦弥	139
[講演要旨]近江盆地の地震環境 小松原琢, 関西地質調査業協会 地盤情報データベース作成委員会, 三田村宗樹	140-141
[講演要旨]1927 年北丹後地震による峰山町の被害発生要因と復興計画 植村善博, 小林善仁	142
[講演要旨]文政京都地震(1830 年)における京都盆地での被害状況 西山昭仁	143-144
[報告]1923 年関東地震における死者発生のプロセス(その4)—震災予防調査会報告第 100 号甲の松澤データの原典— 諸井孝文, 武村雅之	145-155
[報告]1891 年濃尾地震における大阪での被害と震度 長尾武	156-169
[訂正]江戸時代の歴史地震の震源域・規模の再検討作業—7 年間の成果中間報告—の訂正 松浦律子, 中村操, 茅野一郎, 唐鎌郁夫	170
[訂正][研究会記事]歴史地震研究会だより 2007 年 4 月～2008 年 3 月の訂正 歴史地震研究会幹事会	170
[報告]第 26 回歴史地震研究会参加記 大邑潤三	171
[報告]第 26 回歴史地震研究会参加記(巡検) 土田洋一	172
[報告]第 26 回歴史地震研究会(大津大会)開催報告 小松原琢	173

写真 第 26 回歴史地震研究会巡検	174
「日本学術会議協力学術研究団体」指定のお知らせ 歴史地震研究会会長 北原糸子	175
[研究会記事]歴史地震研究会だより 2009 年 5 月～ 2010 年 6 月 歴史地震研究会幹事会	176-204

第 26 号(2011)

口絵 1. 中村・松浦 図 2(本文 p.37)	
口絵 2. 中村・松浦 図 3(本文 p.38)	
口絵 3. 中村・松浦 図 6(本文 p.45)	
[資料]神奈川県秦野市での関東大震災の跡—さまざま な被害の記憶 武村雅之	1-13
宝永地震(1707)による大坂市中での津波遡上高 長尾武	15-18
平安時代に起こった八ヶ岳崩壊と千曲川洪水 早川由紀夫	19-23
四国西部・九州東部沿岸における宝永(1707), 安政 (1854), 昭和(1946)南海津波の波高増幅度 羽鳥徳太郎	25-31
1855 年安政江戸地震の被害と詳細震度分布 中村操, 松浦律子	33-64
[資料]1819 年文政近江地震の全史料の表 石橋克彦	65-83
[講演要旨]埋もれていた被災者実態調査～宮村攝三 が行った「1948 福井地震通信調査」 木村玲欧, 宮村攝三(故人)	84
[講演要旨]1923 年関東地震直後の京都帝国大学の活 動: 京都大学に残る記録 中西一郎	85
[講演要旨][古代・中世]地震・噴火史料データベース 石橋克彦, 古代中世地震史料研究会	86
[講演要旨]白頭山の歴史時代の火山活動 秋教昇, 朴昌業, 都司嘉宣	87
[講演要旨]足摺岬における宝永・安政・昭和南海地震 の地殻変動 宍倉正展, 行谷佑一	88
[講演要旨]1707 年宝永地震の新地震像(速報) 松浦律子, 中村操, 唐鎌郁夫	89-90
[講演要旨]安政南海地震(1854)による土佐国の死者 分布 都司嘉宣, 松岡祐也	91
[講演要旨]文禄五年(1596)伏見地震における京都盆 地での被害状況 西山昭仁	92
[講演要旨]1861 年文久宮城の地震の震源域再々考 松浦律子	93

[講演要旨]1833年出羽沖地震の震源域について 松浦律子, 岩佐幸治, 出町知嗣, 古村美津子, 関根真弓, 鈴木保典, 中村操	94	[講演要旨]三浦半島における関東地震起源の津波堆積物の認定と歴史地震 島崎邦彦, 金幸隆, 千葉崇, 石辺岳男, 松岡裕美, 岡村眞, 都司嘉宣, 佐竹健治	109
[講演要旨]天保四年(1833年)山形沖地震津波の調査 石井寿, 中村亮一, 植竹富一, 宇佐美龍夫, 渡邊健	95	[講演要旨]『日本三代実録』仁和三年五月廿日条の地震記述について—出羽国府周辺で起きた自然災害の検討— 松岡祐也	110
[講演要旨]1793寛政西津軽地震に関する一考察(その1) 白石睦弥, 檜垣大助, 古澤和之	96	[講演要旨]1793寛政西津軽地震に関する一考察(その2) 檜垣大助, 白石睦弥, 古澤和之	111
[講演要旨]安政江戸地震(1855)による江戸市中の町別死者数 都司嘉宣, 松岡祐也	97	[講演要旨]『金木屋日記』に見る幕末の災害情報 白石睦弥	112
[講演要旨]六日町断層の分布とその活動履歴 金幸隆, 吾妻崇	98	[講演要旨]震度インバージョン解析を用いた1900年前後の地震の震源位置と地震規模の評価 神田克久, 武村雅之	113
[講演要旨]史料に基づく1707年宝永地震の発震時刻に関する統計的解釈 今井健太郎, 西山昭仁, 前田拓人, 石辺岳男, 佐竹健治, 古村孝志	99	[講演要旨]1885年以降の「M7級首都直下地震」の類型化(序報) 石辺岳男, 西山昭仁, 佐竹健治, 島崎邦彦	114
[講演要旨]関東大震災による寺院移転:「得生院誌」をめぐって 武村雅之	100	[講演要旨]東京の街に残る関東大震災の跡 武村雅之	115
[講演要旨]プレート境界である、ミャンマーのサガン断層近傍のM7クラス歴史地震(1918年以降)の震源再決定によるサガン断層の地震履歴 古川信雄, Phyo Maung Maung	101	[訂正]寛文10年(1670)四万石の地震の再考 宇佐美龍夫, 植竹富一, 渡邊健, 中村亮一	116-117
[講演要旨]1670年寛文越後地震の震源域 石橋克彦	102	[報告]第27回歴史地震研究会シンポジウム「描かれた江戸, 撮された東京」開催報告 松浦律子, 西山昭仁	118-126
[講演要旨]震度データと上下動地殻変動データに基づく享和2年(1802年)佐渡小木地震の断層モデルの推定 南雲秀樹, 菅原正晴, 中村亮一, 植竹富一	103	写真 第27回歴史地震研究会懇親会	127
[講演要旨]寛延四年(1751)越後高田地震および文政十一年(1828)越後三条地震の村落別死者数 都司嘉宣, 西山昭仁	104	写真 第27回歴史地震研究会見学会	128
[講演要旨]1828年三条地震の震央は平野中央部であったか 河内一男	105	[報告]第27回歴史地震研究会参加記 松岡祐也	129-130
[講演要旨]長野県中・北部で形成された巨大天然ダム の事例紹介—八ヶ岳大月川岩屑なだれと姫川・岩戸山 の大規模地すべり— 井上公夫	106-107	[研究会記事]歴史地震研究会だより 2010年7月～ 2011年6月 歴史地震研究会幹事会	131-159
[講演要旨]千葉県館山市の海浜堆積物に見られる9世紀以降の津波(?)イベント堆積物 藤原治, 平川一臣, 入月俊明, 長谷川四郎, 鎌滝孝信, 原口強, 内田淳一, 阿部恒平	108		

第27号(2012)

- 口絵 1. 三神・辻野 図1(本文 p.28)
口絵 2. 三神・辻野 図5(本文 p.32)
口絵 3. 三神・辻野 図8(本文 p.35)
口絵 4. 三神・辻野 図11(本文 p.39)

論説・資料

- 元暦二年(1185)近江山城地震の起震断層の再検討
小松原琢 1-7
- 新潟県～石川県沿岸の津波累積エネルギー分布
羽鳥徳太郎 9-14

宝永地震(1707)による大坂三郷(北組・南組・天満組)での崩家率 長尾武 15-26

1946年昭和南海地震による高知市の河川堤防被害とその要因 三神厚, 辻野典子 27-39

講演要旨

[講演要旨]小川琢治博士の地震調査フィールドノート: 1909年姉川地震~1938年紀伊水道地震
中西一郎, 服部健太郎, 露木啓悟,
加納靖之, 渡辺周平 41

[講演要旨]Architectural Damage and Reconstruction of Hastings in 1931 Hawke's Bay Earthquake, New Zealand Yoshihiro Uemura 42

[講演要旨]八重山地震津波での性別死亡比と全死亡率との関係 加藤祐三 43

[講演要旨]古代・中世地震史料データベース構築において実在が否定ないし疑問視された地震(序報)
石橋克彦 44

[講演要旨]震災予防調査会報告100号の今日的意義
武村雅之 45

[講演要旨]歴史地震研究で重要な「問い続ける態度」—今村明恒の功罪からの教訓—
松浦律子, 松田時彦, 津村建四朗 46

[講演要旨]新学習指導要領「生きる力」に対応するための歴史地震学習のあり方
木村玲欧, 田村圭子, 井ノ口宗成,
藤田哲也 47

[講演要旨]近世~現代生成層—震災との関連で—
樋口茂生 48

[講演要旨]日本海溝北部~千島海溝沿いで1913~1950年に発生した(巨)大地震の時空間分布
原田智也, 佐竹健治 49

[講演要旨]歴史災害の教訓はいかされたのか?~2011年東北地方大津波の聞き取り調査から~
林能成 50

[講演要旨]仙台平野の津波調査あれこれ
武村雅之 51

[講演要旨]安政江戸地震(1855)による寺院倒壊被害分布
都司嘉宣 52

[講演要旨]関東地震のタイプ分けと再来間隔に関する研究の整理(2):地形の形成年代に関して
金幸隆 53

[講演要旨]絵図の比較から見た宝永地震前後での静岡県牧之原市における海岸線の変化
藤原治, 矢田俊文, 宍倉正展 54

[講演要旨]三浦半島小網代湾内でのジオスライサー掘削で得られた津波堆積物
石辺岳男, 岡村眞, 佐竹健治,
島崎邦彦, 須貝俊彦, 千葉崇,
松岡裕美, 藤原治 55

[講演要旨]1703年元禄関東地震による被災地域の生活環境の変化
村岸純 56

[講演要旨]関東大震災と全国規模の軍事動員—新潟県駐屯部隊の視点から—
吉田律人 57

[講演要旨]1923年関東地震直後の京都帝国大学の活動:京都大学に残る記録(2)救護活動
中西一郎 58

[講演要旨]1885年以降の「M7級首都直下地震」の類型化
石辺岳男, 佐竹健治, 島崎邦彦,
室谷智子, 西山昭仁 59

[講演要旨]震源再決定による1964年新潟地震の断層面推定
古川信雄 60

[講演要旨]越後古代図に見る津波記録の検証
河内一男 61

[講演要旨]明応東海地震(1498)による、駿河湾沿岸の津波被害
都司嘉宣, 小網汪世 62

[講演要旨]『玄與日記』が記す「かみの關」地点とはどこか(1596年豊後地震)
松崎伸一, 川崎真治, 荻山和樹,
西谷淳, 土屋悟 63

[講演要旨]宝永地震翌朝の駿河の地震について
中村操, 松浦律子 64

[講演要旨]南海地震の証言に基づく震源特性の検証
齊藤剛彦, 三神厚 65

[講演要旨]徳島県における地震・津波碑の活用について
井若和久, 上月康則, 山中亮一,
村上仁士 66

[講演要旨]新発見, 過去6000年間の三陸超巨大古津波履歴を示す二つの露頭
平川一臣, 吉岡祥一, 中村衛,
西川由香 67

[講演要旨]東北地方太平洋沖地震と歴史地震の震度インバージョン解析
神田克久, 武村雅之 68

[講演要旨]西暦869年貞観地震津波と2011年地震津波の波源の比較
行谷佑一, 佐竹健治, 藤井雄士郎,
山木滋 69

[講演要旨]1896年(明治29年)三陸地震 津波災害と復興—青森県三沢市の例— 伊野忠昭	70	南海トラフ沿いの沈み込むスラブ内で発生した歴史地震の震度による地震規模推定 神田克久, 武村雅之	35-48
[講演要旨]鳥海山 1801年噴火史料の再検討 林信太郎	71	1927年北丹後地震における峰山町と網野町の復興計画 植村善博	49-55
[講演要旨]京都御所の泉殿と地震殿の現地調査報告 川崎一朗, 高橋昌明, 北原糸子, 岡田篤正, 鈴木祥之, 中西一郎, 石橋克彦	72	静岡県沼津～和歌山県串本間沿岸の津波累積エネルギー分布 羽鳥徳太郎	57-61
[講演要旨]歴史地震の京都有感記録に対する注意点の興味深い実例—花園上皇による元亨三年十月二十九日(1323.11.28)の地震動の考察— 石橋克彦	73	埋もれていた被災者調査—宮村攝三が行った「1948福井地震通信調査」— 木村玲欧	63-70
[講演要旨]近世京都における地震災害の特徴 西山昭仁	74	神奈川県逗子市, 鎌倉市, 藤沢市における1923年大正関東地震による津波～新資料と国土地理院DEMに基づく再検討～ 萬年一剛, 五島朋子, 浪川幹夫	71-84
[講演要旨]歴史地震について(遺言にかえて) 宇佐美龍夫	75	鳥海山 1800-1804年噴火におけるマグマ性の爆発的噴火活動 林信太郎, 伴雅雄, 大場司	85-90
報告・紹介		福井震災の記憶の継承における「復興観音」の役割 高野宏康	91-107
[報告]大阪・四天王寺, 安政南海地震津波碑文の判読 長尾武	77-84	報告・紹介	
[報告]第28回歴史地震研究会参加記 吉田律人	85-86	[報告]石碑が語る東京・名古屋の関東大震災 武村雅之	109-112
[報告]第28回歴史地震研究会巡検参加報告 馬場俊孝	87-88	[報告]1889年紀伊半島災害によって十津川流域で形成・決壊した天然ダム 井上公夫, 土志田正二, 井上誠	113-120
写真 第28回歴史地震研究会(新潟大会)巡検	89	[報告]正平(康安)地震(1361年)による大阪での津波 遡上高 長尾武	121-128
研究会記事		[報告]第29回歴史地震研究会参加記 千葉崇	129-130
[研究会記事]山下文男さんを偲んで 北原糸子	91-94	[報告]第29回歴史地震研究会参加記 蝦名裕一	131-132
[研究会記事]歴史地震研究会だより 2011年7月～2012年6月 歴史地震研究会幹事会	95-126	写真 第29回歴史地震研究会(横浜大会)	133-134
第28号(2013)		[報告]関東大震災と神奈川県(第29回歴史地震研究会公開講演会要旨) 武村雅之	135-136
口絵 1. 井上・他 図2(本文 p.115)		[報告]女学生のみた関東大震災(第29回歴史地震研究会公開講演会要旨) 大西比呂志	137-138
論説・資料		[報告]神奈川県津波想定について(第29回歴史地震研究会公開講演会要旨) 松浦律子	139-141
[資料]神奈川県茅ヶ崎市・寒川町での関東大震災の跡—相模川東岸地域の被害と復興— 武村雅之	1-17		
2004年, 2005年房総沖地震津波と歴史津波 羽鳥徳太郎	19-25		
1927年北丹後地震および1925年北但馬地震における久美浜湾沿岸の被害とその発生要因 大邑潤三	27-34		

講演要旨

[講演要旨]日本海東縁の巨大津波履歴:北海道奥尻島の古津波堆積物

平川一臣, 川上源太郎, 田近淳,
廣瀬亘, 深見浩司 143

[講演要旨]三浦半島江奈湾で採取された過去 4000 年間の津波堆積物

千葉崇, 石辺岳男, 佐竹健治,
島崎邦彦, 須貝俊彦, 西山昭仁,
原田智也, 今井健太郎, 行谷佑一,
上野俊洋 144

[講演要旨]元島遺跡周辺(静岡県磐田市)で見られる 4 世紀から中世にかけての津波堆積物

藤原治, 青島晃, 北村晃寿,
佐藤善輝, 小野映介, 谷川晃一朗,
篠原和大 145

[講演要旨]石垣島における掘削調査で観察された 1771 年八重山津波(?)堆積物

宍倉正展, 安藤雅孝, 中村衛,
涂陽子, 新城安尚 146

[講演要旨]現代生成層—人工的二次堆積物の性状と震災との関係—

樋口茂生, 東将士, 稲田晃,
伊藤彰秀, 岩本広志, 上加世田聡,
川崎健一, 楠恵子, 佐藤伸司,
品田正一, 末永和幸, 渡邊拓美 147

[講演要旨]関東地震に関連する津波堆積物の研究(現時点のレビュー)

藤原治 148

[講演要旨]三浦半島南部の地形調査・堆積物調査から推定された過去複数回の関東地震による上下地殻変動と津波

金幸隆, 熊木洋太, 佐竹健治 149

[講演要旨]浜名湖西岸の浜名川流路跡で見られる中世以降の津波堆積物

佐藤善輝, 藤原治, 小野映介,
矢田俊文, 海津正倫 150

[講演要旨]アンケート調査による 1944 年東南海地震の静岡県太田川低地の液状化発生地点

青島晃, 柴田達哉 151

[講演要旨]1914 年秋田仙北地震の人的被害に関する資料について

水田敏彦 152

[講演要旨]東日本大震災八戸市被災 3 地区の調査結果

白石陸弥, 檜楨貢, 佐々木純一郎,
野澤敬之, 大山祐太, 丹野正 153

[講演要旨]鹿島大宮司日記から「新出」した地震記録とその考察—元禄関東地震の地震動を中心に—

磯田道史 154

[講演要旨]1894 年 10 月 7 日などいくつかの古い地震の震源変更

松浦律子 155

[講演要旨]1923 年関東地震直後の京都帝国大学の活動: (3)P 波初動分布と震源

中西一郎 156

[講演要旨]関東大震災と小学校～横浜市南吉田第二尋常小学校・寿小学校を中心に～

松本洋幸 157

[講演要旨]関東大震災における犠牲者のゆくえ—横浜市域の遺体処理と慰霊・追悼—

吉田律人 158

[講演要旨]関東大震災による煉瓦造建造物の被災状況—横浜を事例として—

青木祐介 159

[講演要旨]2011 年東北地方太平洋沖地震後の南関東における地震活動と歴史地震の震源域への影響

石辺岳男, 酒井慎一, 島崎邦彦,
佐竹健治, 鶴岡弘 160

[講演要旨]越後古代図に見る津波記録の検証—その 2—

河内一男 161

[講演要旨]天延四年(976)京都・近江の地震における被害実態

西山昭仁 162

[講演要旨]1596 年豊後地震による各地の被害の再検証

松岡祐也 163

[講演要旨]丹後震災記念館の建築とその意義

新谷勝行 164

[講演要旨]明応地震津波に関する東海地域での現地調査結果について

内田篤貴, 浦谷裕明, 小川典芳,
中川進一郎, 武村雅之, 都築充雄 165

[講演要旨]『谷陵記』の記載、および寺社被害史料からみた宝永地震津波(1707)による高知県での浸水状況

都司嘉宣, 今井健太郎, 村上嘉謙 166

[講演要旨]享徳三年(1454 年)に奥州を襲った津波

行谷佑一, 矢田俊文 167

[講演要旨]慶長 16 年(1611)三陸沖地震津波の発生メカニズムの考察

都司嘉宣 168

[講演要旨]北海道と周辺の歴史地震史料: 安永八年, 九年(1780 年)得撫(ウルップ)島沖地震

中西一郎 169

[講演要旨]八戸地域における歴史災害と支援の実態

白石陸弥 170

研究会記事

[研究会記事]歴史地震研究会だより 2012年7月～
2013年6月 歴史地震研究会幹事会 171-210

第29号(2014)

口絵 1. 三神 図8(本文 p.10)

論説・資料

過去の南海地震による高知市の堤防被害
三神厚 1-10

日本海沿岸における2011年東日本地震津波と青森・
秋田県沿岸の歴史地震津波
羽鳥徳太郎 11-16

[資料]静岡県熱海市・伊東市での関東大震災の跡—災
害教訓は生かされてきたか?—
武村雅之 17-32

[資料]神奈川県内陸中部での関東大震災の跡—伊勢
原・厚木・海老名・綾瀬・大和・座間—
武村雅之 33-49

文政京都地震(1830)による被害と起震断層の再検討
大邑潤三 51-60

1935年台湾新竹—台中地震の台中州における地震記
念碑について 塩川太郎 61-70

[資料]安政江戸地震に関する新史料『印東家文書』
松浦律子, 中村操, 小田桐睦弥
71-78

天保四年(1833年)の庄内沖地震による輪島での津波
高さの再検討—国土地理院DEMを利用した検討—
二木敬右, 中村亮一, 石井寿 79-92

[資料]官報と戸籍先例にみる関東大震災
齋二幸一 93-110

[資料]埼玉県さいたま市に残る1923年関東地震に関
する石碑 石黒喬大, 荒井賢一, 西山享佑,
安倍聡志, 平原優美, 増田滉己,
浜橋一徳, 齋藤隆, 木村円香
111-128

1914年桜島の地震のマグニチュードの推定
島津奈緒未, 壇一男, 鳥田晴彦,
一徳元, 本村一成 129-143

[資料]善光寺地震と豊後国日田—災害情報の伝達と蓄
積— 櫻井成昭 145-152

1793寛政三陸地震津波と1856安政三陸(八戸沖)地
震津波の仙台藩を中心とした地域における被害
安田容子 153-162

[資料]宝永地震(1707年)と津波による大坂市中での被
害数—26史料による整理と比較—

長尾武 163-171

被災者体験談のコーディングによる津波避難心理・行
動分析手法の提案—1944年東南海地震を事例に—
友安航太, 木村玲欧 173-182

『玄與日記』が記す「かみの關」地点の比定(1596年豊
後地震) 松崎伸一, 平井義人 183-193

『ビスカイノ報告』における1611年慶長奥州地震津波の
記述について 蝦名裕一, 高橋裕史 195-207

鎌倉における明応年間の「津波」について
浪川幹夫 209-219

報告・紹介

[報告]中学・高校の理科研究部員による歴史地震の探
求～サイエンス・パートナーシップ・プログラム実施報
告～ 荒井賢一 221-225

[報告]明治から昭和初期の測量記録(原簿)の電子化
今給黎哲郎, 林保, 小門研亮,
住谷勝樹 227-232

[報告]第30回歴史地震研究会参加記
原田智也 233-234

[報告]第30回歴史地震研究会巡検参加報告
山中佳子 235-236

写真 第30回歴史地震研究会懇親会 237

[報告]古地震研究と東日本大震災(第30回歴史地震
研究会公開講演会要旨)
穴倉正展 239-240

[報告]秋田県周辺の活断層と歴史地震(第30回歴史
地震研究会公開講演会要旨)
小松原琢 241-242

[報告]秋田県で発生した明治以降の歴史地震とその教
訓(第30回歴史地震研究会公開講演会要旨)
水田敏彦 243-244

[報告]あの津波災害を振り返る～日本海中部地震から
30年～(第30回歴史地震研究会公開講演会要旨)
伊藤和明 245

講演要旨

[講演要旨]1935年台湾新竹—台中地震における被害
と地形環境 植村善博 247

[講演要旨]1596年豊後地震における被害の再検証—
豊後府内を除く地域について—
松岡祐也 248

[講演要旨]福井震災後における丸岡城の再建と「町民
意識」 高野宏康 249

[講演要旨]高知県沿岸集落における「亡所」に着目した宝永地震津波の現地調査 松尾裕治, 中野晋, 村上仁士 250-251	[講演要旨]1918年信州大町地震の断層運動とそのテクトニックな意味 河内一男 266
[講演要旨]高知大学地震観測所所蔵の昭和南海地震の被害写真について 山品匡史, 久保篤規, 大石佑輔 252	[講演要旨]秋田最古の830年天長地震を探る 野越三雄, 中村亮一, 王寺秀介 267
[講演要旨]歴史資料の波高データにもとづく南海トラフ地震発生シナリオの制約 兵藤守, 安藤和人, 馬場俊孝, 堀高峰 253	[講演要旨]千葉県睦沢町における関東大震災の影響 村岸純, 佐竹健治 268
[講演要旨]長野県北西部の巨大地すべり群と中世に発生した大地震 畠山幸司, 高原卓司 254	[講演要旨]ロシア沿海州における歴史時代及び先史時代の津波堆積物調査 西村裕一, 中村有吾 269
[講演要旨]1885年以降に関東及びその周辺で発生した中～大地震の類型化(その1)—初期微動継続時間と初動の整理— 石辺岳男, 村岸純, 佐竹健治 255	[講演要旨]佐渡の沿岸集落での歴史津波の浸水高さ 都司嘉宣, 岩瀬浩之, 原信彦, 久保田徹, 岩渕洋子, 今村文彦 270
[講演要旨]869年貞観地震の規模の再検討:津波堆積物と浸水深を考慮したシミュレーションに基づく 行谷佑一, 佐竹健治 256	[講演要旨]山形県飛島の津波堆積層と遺跡との関係—特に考古学的な視点から— 相原淳一, 駒木野智寛, 大畑雅彦 271
[講演要旨]明応地震津波に関する東海地域での現地調査結果について(その2) 内田篤貴, 浦谷裕明, 小川典芳, 中川進一郎, 武村雅之, 都築充雄 257	[講演要旨]日本海東縁の津波堆積物:巨大津波履歴と課題 平川一臣 272
[講演要旨]五ヶ所湾湾奥部における安政東海地震津波の浸水高分布 鳴橋竜太郎, 佐竹健治 258	[講演要旨]1894年庄内地震の調査日誌・紀行文から読取る被害状況 水田敏彦, 鏡味洋史 273
[講演要旨]静岡市付近の宝永津波史料—波高推定の可能性をさぐる— 磯田道史 259	[講演要旨]1801年(享和元年)に発生した鳥海山の火山泥流 林信太郎 274
[講演要旨]元禄地震津波(1703)の大名領被害記録を完全に読み解けばどうなる? 都司嘉宣 260	[講演要旨]西暦857年(天安元年)比内地震に伴う崩壊地形(予察) 栗山知士 275
[講演要旨]元禄地震で発生した土砂災害(神奈川・山梨県域) 今村隆正, 北原糸子, 千葉達朗 261	[講演要旨]関東大震災による白糸川の大規模土砂移動 井上公夫, 相原延光, 茅野光廣 276
[講演要旨]684年と887年の間に未知の南海トラフ巨大地震があるか? 石橋克彦 262	[講演要旨]1923年関東大震災前後の天気報告について 相原延光, 井上公夫 277
[講演要旨]1605年慶長地震は南海トラフの地震か? 松浦律子 263	[講演要旨]続 現代生成層—その災害との関わり— 樋口茂生, 東将士, 稲田晃, 伊藤彰秀, 岩本広志, 上加世田聡, 川崎健一, 楠恵子, 佐藤伸司, 品田正一, 末永和幸, 渡邊拓美 278
[講演要旨]西伊豆戸田における中世後期以降の津波被害について 都築充雄, 武村雅之 264	[講演要旨]歴史地震における被害評価方法の試案 西山昭仁 279
[講演要旨]伊豆半島東岸伊東市における津波堆積物の掘削調査 藤原治, 石辺岳男, 千葉崇, 佐竹健治, 金子浩之, 市川清士 265	

研究会記事

[研究会記事]歴史地震研究会だより 2013年7月～2014年6月 歴史地震研究会幹事会 281-317

第30号(2015)

口絵1. 石辺・他 図2(本文 p.112)
口絵2. 石辺・他 図4(本文 p.115)
口絵3. 石辺・他 図5(本文 p.116)
口絵4. 石辺・他 図6(本文 p.117)

- 口絵 5. 石辺・他 図 7 (本文 p.118)
 口絵 6. 石辺・他 図 8 (本文 p.119)
 口絵 7. 石辺・他 図 10 (本文 p.122)
 口絵 8. 石辺・他 図 11 (本文 p.123)

論説・資料

[資料]神奈川県南足柄市での関東大震災の跡—石碑
 に見る農村の復興—

武村雅之 1-22

文禄五年豊後地震における早吸日女神社の津波痕跡
 高の推定 松崎伸一, 日名子健二, 平井義人
 23-42

[資料]1925年北但馬地震の供養塔・記念碑と関連行事
 について 新谷勝行 43-49

[資料]1914年秋田仙北地震による秋田鉾山専門学校
 被害の文献調査 水田敏彦, 鏡味洋史 51-62

1935年台湾新竹—台中地震の新竹州における地震記
 念碑について 塩川太郎 63-74

1586年天正地震の震源域と津波
 羽鳥徳太郎 75-80

南海トラフを震源とする地震による各地の揺れの体験談
 三神厚, 井口妙子, 齊藤剛彦,
 河野生磨, 弘中拓斗 81-92

[資料]安政地震と堺地域—金岡光念寺の被災記録—
 矢内一磨 93-107

関東地方において計器観測初期に発生した地震の調
 査のための近年の地震データの収集・整理と1922年浦
 賀水道付近の地震への予察的適用
 石辺岳男, 佐竹健治, 村岸純,
 鶴岡弘, 中川茂樹, 酒井慎一,
 平田直 109-127

仙台藩を中心とした地域における延宝五年(1677)に発
 生した二つの津波の被害記録
 安田容子, 蝦名裕一, 今井健太郎
 129-138

[資料]埼玉県さいたま市に残る1923年関東地震に関
 する石碑 その2
 石黒喬大, 荒井賢一, 小林優介,
 西山享佑 139-148

1703年元禄関東地震における東京湾最奥部の津波被
 害の再検討 村岸純, 佐竹健治, 石辺岳男,
 原田智也 149-157

報告・紹介

[報告]安政南海地震・津波の犠牲者五十回忌法要—
 大阪市・大地震両川口津浪記石碑にて—
 長尾武 159-167

[報告]逗子市小坪における1923年大正関東地震と大
 正津波—紫雲の版画「震後津浪襲来 逗子小坪所見」
 と『震災津波日記簿』—
 蟹江由紀, 蟹江康光, 布施憲太郎
 169-175

[報告]第31回歴史地震研究会参加記
 伊尾木圭衣 177-178

写真 第31回歴史地震研究会(名古屋大会) 179

[報告]記念堂とともに—天野若圓以来120年—(第31
 回歴史地震研究会公開講演会講演録)
 西村道代 181-184

[報告]深溝松平家の歴史に見る災害の爪痕(第31回
 歴史地震研究会公開講演会要旨)
 神取龍生 185-186

[報告]歴史に学ぶ防災論:濃尾・関東・東南海(第31回
 歴史地震研究会公開講演会要旨)
 武村雅之 187-189

講演要旨

[講演要旨]志摩半島の完新世古津波堆積物
 平川一臣 191

[講演要旨]糸魚川—静岡構造線と信州大町地震の断
 層運動 河内一男 192

[講演要旨]1944年東南海地震の被害再検討(1)戦禍が
 もたらした震災
 木股文昭, 松多信尚 193

[講演要旨]1944年12月7日東南海地震の震度分布と
 被害の特徴—飯田汲事データの検証と現地調査—
 武村雅之, 虎谷健司 194

[講演要旨]1945年1月13日三河地震の震度分布と被
 害の特徴—死者数が多い要因について—
 中井春香, 武村雅之 195

[講演要旨]山奈宗真『岩手県沿岸大海嘯取調書』に記
 される近代以前の歴史津波痕跡について
 蝦名裕一, 今井健太郎, 首藤伸夫
 196

[講演要旨]三陸海岸における古津波堆積物の認定と歴
 史津波との対比:岩手県山田町小谷島と宮城県南三陸
 町大沼におけるトレンチ調査
 石村大輔, 宮内崇裕, 早瀬亮介 197

[講演要旨]鳥海山の1801年(享和元年)ブルカノ式噴火
 に伴う火山弾 林信太郎, 樋渡蓮 198

[講演要旨]岩手県・宮城県・福島県における過去400
 年間の津波 安田容子, 平川新 199

[講演要旨]明応地震津波に関する東海地域での現地調査結果について(その3) 久永哲也, 内田篤貴, 浦谷裕明, 小川典芳, 武村雅之, 都築充雄	200	[講演要旨]安政江戸地震の震度分布の再現性—三次元減衰構造を考慮した統計的グリーン関数による評価— 中村亮一	216
[講演要旨]1944年東南海地震・1946年南海地震のアンケート調査による震度分布 原田智也, 室谷智子, 佐竹健治, 古村孝志	201	[講演要旨]1855年安政江戸地震の被害と震源について 中村操, 松浦律子	217
[講演要旨]三河地震における死亡者と活断層および地形との関係 松多信尚, 木股文昭	202	[講演要旨]1707年宝永地震, 1854年安政地震による城の被害:「常陸笠間 牧野家文書」中にみえる宝永地震による三河吉田城の被害 中西一郎	218
[講演要旨]1611年慶長奥州地震津波に関する新出史料とその分析 蝦名裕一	203	[講演要旨]1498年明応東海地震と対をなす南海地震について 石橋克彦	219
[講演要旨]慶長豊後地震と豊府紀聞・豊府聞書 日名子健二, 松崎伸一, 平井義人	204	[講演要旨]種子島、および長崎での宝永地震津波(1707)の浸水高 都司嘉宣, 今井健太郎, 佐藤雅美, 芳賀弥生, 松岡祐也, 今村文彦	220
[講演要旨]1924年丹沢地震, 1888年栃木の地震など、いくつかの明治・大正の地震の再検討(その2) 松浦律子	205	[講演要旨]史料からみる宝永地震(1707年)の際の日向国の被災状況 安藤正純	221
[講演要旨]歴史地震記録に学ぶ防災・減災ガイドについて 山本真一郎, 武村雅之, 都築充雄, 山中佳子, 宮尾浩一, 小山彰	206	[講演要旨]宝永地震(1707)による高知県東洋町名留川の大規模土砂災害 井上公夫, 中西一郎	222
[講演要旨]1454(享徳三)年に奥州に大津波をもたらした地震について 石橋克彦	207	[講演要旨]1707年宝永地震による東海道筋損所の大名手伝普請による修復について 北原糸子	223
[講演要旨]津波痕跡高分布に基づく1833年天保出羽沖地震の波源再評価 今井健太郎, 都司嘉宣	208	[講演要旨]愛知県における安政東海地震津波の痕跡調査 矢沼隆, 都司嘉宣, 平畑武則, 松岡祐也, 佐藤雅美, 芳賀弥生, 今村文彦	224
[講演要旨]寺院被害記録から見た文政越後三条地震(1828)の震度分布 小諸拓也	209	[講演要旨]安政東海地震津波(1854)における五ヶ所湾地域の被害状況 鳴橋竜太郎, 原田智也, 佐竹健治	225
[講演要旨]1894年庄内地震の被害と地形条件 水田敏彦, 鏡味洋史	210	[講演要旨]神社明細帳でみた南海トラフ地震 山中佳子	226
[講演要旨]青森県深浦町椿山の津波堆積層と遺跡—特に、縄文時代晩期津波堆積層(Ts4)について— 相原淳一, 駒木野智寛	211	[講演要旨]1943年鳥取地震直後のアンケートから推定される気象庁震度分布およびそれに基づく震源像 香川敬生, 中村真理子, 野口竜也, 西田良平	227
[講演要旨]西津軽・男鹿間における歴史地震・津波の被害と復興—元禄能代地震と宝永岩館地震— 白石睦弥	212	[講演要旨]日本歴史地震総表について 石井寿, 宇佐美龍夫	228
[講演要旨]文禄五年(1596)地震における瀬戸内海周辺での被害状況 松岡祐也	213	[講演要旨]ジャパネシアの神話と地震・噴火 保立道久	229
[講演要旨]文禄五年(1596)伏見地震における京都盆地での被害評価 西山昭仁	214	[講演要旨]帝都復興から丹後震災復興へ—小林善九郎の貢献— 植村善博	230
[講演要旨]近畿地方周辺の内陸歴史地震と南海トラフ地震の時空間的關係 鹿倉洋介, 深畑幸俊, 平原和朗	215		

[講演要旨]現代生成層一災害との関わりの小括— 樋口茂生, 阿部裕寛, 東将士, 稲田晃, 伊藤彰秀, 岩本広志, 上加世田聡, 川崎健一, 楠恵子, 佐藤伸司, 品田正一, 末永和幸, 渡邊拓美	231	[資料]南北朝期の『細々要記』と『七卷冊子』の史料価値—1361年の地震活動に関連して— 石橋克彦	71-74
[講演要旨]歴史災害調査と写真の活用 今村隆正	232	[論説]1361年康安南海地震で法隆寺五重塔の九輪の上は本当に燃えたのか? 石橋克彦	75-79
訂正		[論説]1099年承德(康和)南海地震は実在せず, 1096年嘉保(永長)地震が「南海トラフ全域破壊型」だった可能性—土佐地震記事を含む『兼仲卿記』紙背の官宣旨案の考察— 石橋克彦	81-88
[訂正]埼玉県さいたま市に残る1923年関東地震に関する石碑 石黒喬大, 荒井賢一, 西山享佑, 安倍聡志, 平原優美, 増田滉己, 浜橋一徳, 齋藤隆, 木村円香	233	[論説]宝永・安政地震の城郭被害—志摩国鳥羽城を中心に 盆野行輝	89-103
研究会記事		[論説]文禄五年豊後地震における奈多宮の津波高 松崎伸一, 日名子健二, 平井義人	105-124
[研究会記事]歴史地震研究会だより 2014年7月～ 2015年6月 歴史地震研究会幹事会	235-262	[論説]明治三陸津波と昭和三陸津波の災害復興政策に関する比較研究 岡村健太郎	125-138
第31号(2016)		報告・紹介	
口絵 1. 小松原 図1(本文 p.7)		[報告]宝永地震(1707年)と津波による大坂市中での死者数 長尾武	139-142
口絵 2. 盆野 図12(本文 p.99)		[報告]山陰沿岸の歴史津波と日本海東縁津波の波高分布 羽鳥徳太郎	143-150
口絵 3. 松崎・他 図3(本文 p.121)		[報告]『印南湾における津波の挙動』—印南中学校の津波研究と防災啓発活動— 阪本尚生	151-156
口絵 4. 松崎・他 図14(本文 p.124)		[報告]北但馬地震および北丹後地震における豊岡町, 峰山町, 網野町の復興計画と実施過程(第32回歴史地震研究会公開講演会要旨) 植村善博	157-161
論説・資料		[報告]北但馬地震からの復興とまちづくり(第32回歴史地震研究会公開講演会要旨) 松井敬代	163-164
[論説]死傷者率にもとづく内陸地震の震央の推定—安政五年(1858年)飛越地震の事例— 小松原琢	1-7	[報告]北丹後地震の記念碑・震災記念館と復興建築(第32回歴史地震研究会公開講演会要旨) 新谷勝行	165-167
[論説]詳細震度検討による1703年元禄地震の新地震像(速報) 松浦律子, 中村操	9-16	[報告]第32回歴史地震研究会参加記 木戸崇之	169-171
[資料]黒田郡水没伝承と海底遺構調査から歴史南海地震を紐解く:レビューと今後の展望 谷川亘, 浦本豪一郎, 徳山英一, 村山雅史, 山本裕二	17-26	[報告]第32回歴史地震研究会巡検参加報告 高岸冨佳	173-175
[論説]1999年台湾921大地震における地震記念碑について 塩川太郎	27-40	講演要旨	
[論説]伊賀上野地震で決壊した「奈良・古市村のため池」の位置推定 木戸崇之	41-51	[講演要旨]明応年間の関東地方における地震津波被害像と明応関東地震について 浦谷裕明, 小川典芳, 久永哲也, 内田篤貴, 武村雅之, 都築充雄	177
[資料]岩手県宮古市田老地区に残る1896年・1933年三陸地震の津波に関する碑 安部聡志, 荒井賢一, 清水駿平, 山本朗生, 高梨南風, 寺田達彦	53-66		
[論説]794年(延暦十三)の幻の「南海地震」について—「震死」の意味 石橋克彦	67-69		

[講演要旨]津波堆積物から見た若狭湾を襲った14~16世紀頃の 大津波について 山本博文, 卜部厚志, 佐々木直広	178	[講演要旨]1894年明治東京地震, 1895年震ヶ浦の地震など, いくつかの明治・大正の地震の再検討(その3) 松浦律子	192
[講演要旨]1586年天正地震における伊勢湾沿岸地域の被害について 松岡祐也	179	[講演要旨]関東大震災の地上写真と空撮—逗子町の地盤液状化・津波・かけ崩れ— 蟹江由紀, 蟹江康光, 布施憲太郎	193
[講演要旨]寛文二年(1662)近江・若狭地震における京都盆地での被害評価 西山昭仁	180	[講演要旨]北丹後地震・鳥取地震・北但馬地震の文献集 西田良平, 香川敬生, 野口竜也, 石賀晶仁	194
[講演要旨]1707年宝永地震の余震被害について 中村操, 松浦律子	181	[講演要旨]地震直後に行われたアンケート調査による1944年東南海地震・1945年三河地震の震度分布 原田智也, 室谷智子, 佐竹健治, 古村孝志	195
[講演要旨]最新の地下構造調査に基づく1833年天保出羽沖地震の波源断層評価 今井健太郎, 高橋成実, 大林涼子	182	[講演要旨]Text Encoding Initiative ガイドラインに基づく古地震史料のマークアップ 橋本雄太, 加納靖之, 大邑潤三	196
[講演要旨]安政東海地震(1854)における愛知県の寺院被害状況の整理(その1)目的と地図情報化事例 都築充雄, 平井敬, 中井春香, 山本真一郎, 倉田和己	183	[講演要旨]数値シミュレーションからみた明応南海トラフ地震シナリオ 兵藤守, 堀高峰	197
[講演要旨]1855年安政江戸地震における千葉・茨城県域の被害 村岸純, 佐竹健治, 石辺岳男, 原田智也, 西山昭仁	184	[講演要旨]古都鎌倉の関東大震災を歩く—世代を越えた社寺復興— 武村雅之	198
[講演要旨]1855年安政江戸地震の広域震度分布の特徴とそれに基づく震源像について 中村亮一, 西山昭仁, 佐竹健治, 石辺岳男, 村岸純	185	[講演要旨]関東大震災の海軍空撮写真—はじめて公開された神奈川県沿岸域の写真を中心として— 蟹江康光, 布施憲太郎, 蟹江由紀	199
[講演要旨]1858年飛越地震の史料と家屋倒壊率—飛騨国を事例として— 矢田俊文	186	[講演要旨]山奈宗真史料にみる岩手県沿岸の歴史津波 蝦名裕一, 今井健太郎, 首藤伸夫	200
[講演要旨]青森県・秋田県の日本海沿岸地域における歴史地震 白石睦弥	187	[講演要旨]昭和三陸地震津波(1933)における共助と復興支援 白石睦弥	201
[講演要旨]和歌山県における津波碑の空間分布に関する現地調査 石橋正信, 高橋成実, 馬場俊孝, 今井健太郎, 大林涼子	188	[講演要旨]南海トラフを震源とする地震による地殻変動に伴う四国の地盤の沈降や隆起 三神厚, 中西一郎, 古川和輝, 横山裕樹	202
[講演要旨]明応地震津波に関する東海地域での現地調査結果について(その4) 久永哲也, 内田篤貴, 浦谷裕明, 小川典芳, 武村雅之, 都築充雄	189	[講演要旨]紀伊半島南部串本周辺における古地震・古津波痕跡について 穴倉正展, 前杵英明, 越後智雄, 行谷佑一	203
[講演要旨]安政南海地震津波による徳島県海陽町穴喰浦での津波高さ と被害分布 行谷佑一, 今井健太郎, 村上仁士	190	[講演要旨]テンプレートマッチングに基づく大地震の震源・発震機構解推定 石辺岳男, 佐竹健治, 村岸純, 鶴岡弘, 中川茂樹, 酒井慎一, 平田直	204
[講演要旨]明治三陸地震津波以前の災害認識—帝国大学理科大学の調査資料から— 蝦名裕一, 佐竹健治	191	[講演要旨]新収日本地震史料および拾遺のDB化とその検索システムの作成 山中佳子	205

[講演要旨]京都大学理学部に所蔵されている自然災害史料の解説と画像化

加納靖之, 服部健太郎, 中西一郎,
安国良一, 五島敏芳, 渡辺周平,
岩間研治, 福岡浩 206

[講演要旨]1939年男鹿地震と1955年二ツ井地震—地震体験者へのヒアリング調査

林信太郎, 渡部公成, 吉成洸人 207

[講演要旨]1943年鳥取地震直後に実施された東京大学地震研究所の現地調査の足取り

香川敬生, 畑岡寛 208

[講演要旨]三河地震の慰霊碑にみる土地改良と復興の歴史

中井春香, 武村雅之 209

[講演要旨]昭和南海地震における宮崎県の被害状況

安藤正純 210

[講演要旨]現代生成層—災害との関わりの補遺—

樋口茂生, 阿部裕寛, 東将士,
稲田晃, 伊藤彰秀, 岩本広志,
上加世田聡, 川崎健一, 楠恵子,
佐藤伸司, 品田正一, 渡邊拓美 211

[講演要旨]「びやく」という土砂災害の事例紹介と分布について

井上公夫, 相原延光 212

[講演要旨]「びやく」の言語学的調査の紹介

相原延光, 井上公夫 213

[講演要旨]地震に関する地名はなぜ残らなかったのか

河内一男 214

[講演要旨]四国の防災風土資源について—地震・津波事例について—

松尾裕治, 村上仁士 215

[講演要旨]昭和2年(1927)北丹後地震の家屋倒壊と死者率のちがいについて

都司嘉宣 216

[講演要旨]1927年北丹後地震の積雪による被災と対応に関する文献調査

水田敏彦, 鏡味洋史 217

[講演要旨]京都大学に残る地震直後の調査記録と現地調査による1925年北但馬地震の1927年北丹後地震被害への影響評価

服部健太郎, 中西一郎, 加納靖之,
渡辺周平 218

[講演要旨]断層ガウジの色彩に基づく断層の相対的な活動性推定手法

内田淳一, 宮脇昌弘 219

研究会記事

[研究会記事]歴史地震研究会だより 2015年7月～2016年4月 歴史地震研究会幹事会 221-248

[研究会記事]歴史地震総目次(第1号～第30号)
歴史地震研究会編集出版委員会

249-278

第32号(2017)

論説・資料

[資料]1707年宝永地震の地殻変動を示唆する史料

柴田亮 1-17

[論説]『日本三代実録』にみえる五大災害記事の特異性

柳澤和明 19-38

[論説]『大日本地震史料』採録史料の収集過程—文禄五年伏見地震関連史料を例として—

松岡祐也 39-47

[論説]伊勢神宮外宮の被害からみた康安元年の地震

奥野真行, 奥野香里 49-55

[論説]1596年豊後地震における沖ノ浜の津波高7ブラサの検証

松崎伸一, 日名子健二, 平井義人 57-76

[資料]埼玉県春日部市に残る1923年関東地震に関する石碑

荒井賢一, 小林優介, 竹原輝,
高木駿, 山浦照良, 安倍聡志,
北廣創史 77-86

[資料]地震年表や史料集における年月日の取り違い

加納靖之 87-93

報告・紹介

[報告]台湾南投県での921大地震(1999年)の震災モニュメント

塩川太郎 95-97

[報告]歴史地震の震度について

宇佐美龍夫 99-102

[報告]埼玉県春日部市郷土資料館に残る1923年関東地震に関する記録—大震災記念児童文集と大正12年粕壁町震災写真帳—

荒井賢一, 小林優介, 竹原輝,
高木駿, 山浦照良, 安倍聡志,
北廣創史 103-106

[報告]「大槌町津波アーカイブに向けたワークショップ」の記録

岡村健太郎 107-110

[報告]第33回歴史地震研究会参加を通して

谷川亘 111-114

[報告]第33回歴史地震研究会参加記—未来へ残す記録と復興—

中井春香 115-116

講演要旨

[講演要旨]砂丘中の埋没樹と大津波伝説

河内一男 117

[講演要旨]1586年天正地震による木曾川河口の被害—長島・桑名の地震被害について— 松岡祐也	118	[講演要旨]1855年安政江戸地震における遠地での有感記録と関東における地震史料データベースの構築 村岸純, 西山昭仁, 矢田俊文, 榎原雅治, 石辺岳男, 中村亮一, 佐竹健治	134
[講演要旨]百井糖雨著「笈埃隋筆」に記された海嘯について 都司嘉宣, 小田桐(白石)睦弥, 松岡祐也, 佐藤雅美, 今村文彦	119	[講演要旨]1855年安政江戸地震の出火点と延焼域の再検討 中村操, 松浦律子	135
[講演要旨]文政京都地震(1830年)における京都盆地での被害評価 西山昭仁	120	研究会記事	
[講演要旨]気象庁震度データベースの有感余震記録から大地震の震源域推定は可能か?—歴史地震への適用可能性の検証— 石辺岳男, 松浦律子, 岩佐幸治, 佐竹健治	121	[研究会記事]歴史地震研究会だより 2016年5月~2017年4月 歴史地震研究会幹事会	137-157
[講演要旨]石碑が語る震災復興:関東大震災 武村雅之	122	第33号(2018)	
[講演要旨]1945年三河地震の断層近傍における死者数と全潰数の分布 中井春香, 武村雅之	123	論説・資料	
[講演要旨]熊本県の歴史地震と土砂災害 今村隆正	124	[論説]蒲原地震山の成因について(速報) 松浦律子, 田中圭, 中田高, 田力正好, 松田時彦	1-13
[講演要旨]明応地震津波に関する東海地域での現地調査結果について(その5) 久永哲也, 内田篤貴, 小川典芳, 浦谷裕明, 武村雅之, 都築充雄	125	[論説]明応年間の関東地方における地震津波の被害像と明応関東地震の可能性 ~元禄関東地震津波および大正関東地震津波との比較を通じて~ 浦谷裕明, 都築充雄, 武村雅之, 小川典芳, 久永哲也, 内田篤貴	15-20
[講演要旨]関東地域の異常震域の再検討—1855年安政江戸地震の震源像解明に向けて— 中村亮一, 村岸純, 西山昭仁, 佐竹健治, 石辺岳男	126	[資料]寺廟に残された台湾の歴史地震 -1848年(台湾)彰化地震の跡- 塩川太郎, 林麗華	21-30
[講演要旨]高知県の地震津波碑の保全に向けたデジタルアーカイブ化計画 谷川亘, 浦本豪一郎, 内山庄一郎, 折中新, 山品匡史, 原忠	127	[資料]1894年庄内地震の西郷村役場綴に記された被害について 水田敏彦, 鏡味洋史	31-38
[講演要旨]地震直後に行われたアンケート調査による1948年福井地震の震度分布 原田智也, 佐竹健治, 古村孝志, 室谷智子	128	[資料]1921年龍ヶ崎地震と1923年関東地震による玉川上水の被害とその対応 中村亮一	39-46
[講演要旨]蒲原地震山再考 史料・地形・地球物理学的総合検討 松浦律子, 田中圭, 中田高, 田力正好, 松田時彦	129	[論説]関東大震災の寺院被害と復興 -関東圏における真言宗智山派寺院の場合- 北原糸子	47-60
[講演要旨]安政東海地震(1854)における愛知県の寺院被害状況の整理(その2)西三河南部 都築充雄, 平井敬, 中井春香, 山本真一郎, 倉田和己	130	[資料]江戸時代に関東地方で発生した歴史地震の史料データベース 佐竹健治, 村岸純, 榎原雅治, 矢田俊文, 石辺岳男, 西山昭仁	61-77
[講演要旨]富士川西岸における安政東海地震以前の洪水被害 行谷佑一, 宍倉正展	131	[論説]宝永四年十月五日の地震の被害とその震源の推定 中村操, 松浦律子	79-92
[講演要旨]東日本大震災津波と貞観津波における浸水域に関する検討 相原淳一, 高橋守克, 柳澤和明	132	[資料]『畑屋村震災惨状記』に記された1896年陸羽地震の震災の状況と対応について 鏡味洋史, 水田敏彦	93-101
[講演要旨]1611年慶長奥州地震津波の歴史的評価について 蝦名裕一	133	[論説]安政伊賀上野地震の城郭被害 盆野行輝	103-120

[論説]1596年豊後地震における府内・沖ノ浜への津波襲来時刻 松崎伸一, 日名子健二, 平井義人 121-138	[講演要旨]起震断層近傍での高密度死者分布 都司嘉宣, 矢田俊文 245
[資料]1575年にバルディピア沖で発生した巨大地震が日本にもたらした遠地津波 柴田亮 139-144	[講演要旨]いさぼうネットのシリーズコラム「歴史的大規模土砂災害地点を歩く」の紹介 井上公夫 246
[論説]濃尾地震における浄土宗の活動について 長谷川雄高 145-155	[講演要旨]『三重県歴史災害史年表稿』を編集してわかったこと 新田康二 247
[論説]永正九年(1512)六月九日の地震と同年の穴喰洪流に関する諸問題-1498年明応東海地震と対をなす南海地震に関連して- 石橋克彦 157-166	[講演要旨]気象庁震度データベースの有感余震記録から大地震の震源域推定は可能か? -歴史地震への適用可能性の検証-(続報) 石辺岳男, 松浦律子, 岩佐幸治, 中村亮一, 佐竹健治 248
[論説]神奈川県鎌倉市で発見された江戸期の特異な堆積物~津波が関与した可能性の検討~ 松島義章, 萬年一剛, 千葉崇, 野村律夫, 田中源吾, 宮田眞, 滝澤晶子, 山口麻衣, 鈴木茂, 遠藤邦彦 167-186	[講演要旨]前近代の日記における地震動の大きさ表記と信頼性 片桐昭彦 249
[論説]『武家年代記』と『鎌倉年代記』の13-15世紀の地震記事:鎌倉か京都か? 石橋克彦 187-193	[講演要旨]明治日本の地震研究とお雇い外国人-ジョン・ミルンの手紙より- 阪本真由美 250
[論説]寛政西津軽地震(1793年)による津波被害について 小田桐(白石)睦弥 195-203	[講演要旨]四国の津波避難タワーと歴史地震津波情報の活用 松尾裕治, 村上仁士 251
報告・紹介	[講演要旨]鎌倉における過去の津波到達地点 浪川幹夫, 平田恵美, 辻亜紀, 萬年一剛 252
[報告]唐丹の津波石の捏造者は込山英松 沼田清 205-208	[講演要旨]1257(正嘉元)年と1293(正応六)年の鎌倉大地震-史料による相模トラフ巨大地震の再確認- 石橋克彦 253
[報告]関東大震災と皇族邸の被害-宮内公文書館資料から- 木下恭子 209-212	[講演要旨]明応地震津波に関する東海地域での現地調査結果について(その6) 久永哲也, 内田篤貴, 原田怜, 小川典芳, 浦谷裕明, 武村雅之, 都築充雄 254
[報告]『伏見酒造組合資料』にみえる明治期の地震 加納靖之, 水島和哉 213-219	[講演要旨]1586年天正地震における琵琶湖畔での被害 山村紀香, 加納靖之 255
[報告]『幸手町のかたりべ』に記された埼玉県幸手市における1923年関東地震 篠田海遥, 野間鉄心, 荒井賢一 220-236	[講演要旨]地震後に象潟を訪れた人々と象潟地震 安田容子, 今井健太郎 256
[報告]第34回歴史地震研究会参加記 室谷智子 237-239	[講演要旨]1854年伊賀上野地震の際に伏見で発生した液状化被害 加納靖之 257
[紹介]『歴史地震』の総目次と索引の作成 林豊, 石辺岳男, 小田桐(白石)睦弥, 西山昭仁 240-242	[講演要旨]関東大震災における千葉県内の慰霊碑調査中間報告I(船橋市・館山市・八千代市) 小菌崇明, 秋山美咲, 鮎川華歩, 吉種佑香, 青木源太, 梅原泰地, 齊藤希和 258
講演要旨	[講演要旨]海底地すべりを波源とした1512年永正津波の数値計算 馬場俊孝, 芦寿一郎, 金松敏也 259
[講演要旨]歴史地震における山崩れ発光現象とその発生メカニズム 榎本祐嗣, 山辺典昭, 水原和行 243	[講演要旨]1596年豊後地震の発生日に関する考察 松崎伸一, 日名子健二, 平井義人 260
[講演要旨]「川底が割れた」という昭和の大橋落橋時(1964年新潟地震)の目撃談 河内一男 244	

[講演要旨]1586年三陸における津波は「みなしご津波」か「偽津波」か？ 佐竹健治	261	[講演要旨]帝国大学理科大学の調査資料にみる津波記録・伝承 蝦名裕一, 佐竹健治	275
[講演要旨]1804年象潟地震の断層モデルに関する検討 今井健太郎, 大林涼子, 岡田真介, 安田容子, 蝦名裕一, 高橋成実, 都司嘉宣	262	[講演要旨]1889(明治22)年明治熊本地震の詳細震度分布 山中佳子, 新井田倫子	276
[講演要旨]1741年渡島大島での山体崩壊と津波の数値計算による再現 伊尾木圭衣, 柳澤英明, 谷岡勇市郎, 川上源太郎, 加瀬善洋, 仁科健二, 廣瀬亘, 石丸聡	263	[講演要旨]1893年色丹島沖, 1902年折爪断層付近など, いくつかの明治・大正の地震の再検討(その4) 松浦律子, 石辺岳男	277
[講演要旨]日本統治時代に台湾で発生した地震の被害および対応の特徴 林能成	264	[講演要旨]岩手県気仙郡唐丹村行政文書に見られる昭和と三陸地震津波後の対応 熊谷誠, 蝦名裕一	278
[講演要旨]1921-1938年の植民地期インドネシアにおける地震の地震動のオランダ語表現とロッシ・フォレル震度階の推定 梶田諒介, 甲山治	265	[講演要旨]災害アーカイブズとしての山口弥一郎旧蔵資料の特徴と意義 辻本侑生, 岡村健太郎, 青井哲人, 石樽督和	279
[講演要旨]近世京都における被害地震の特徴と要因 西山昭仁	266	[講演要旨]震度インバージョン解析による大正関東地震の本震とM7クラスの余震の震度分布の推定および元禄地震との比較 神田克久, 武村雅之	280
[講演要旨]1830年文政京都地震における京都盆地北部の被害と被害要因の整理 大邑潤三, 西山昭仁	267	[講演要旨]1923年関東地震による相模川堤防の被害 清水雅樹, 三神厚, 西恭平	281
[講演要旨]復元地形に基づく歴史災害の分析 蝦名裕一, 菅原大助, 岡田真介, 今井健太郎	268	[講演要旨]石碑から見える関東大震災の復興(まとめ) 武村雅之	282
[講演要旨]1710年・1711年伯耆国・美作国の地震と史料 矢田俊文	269	研究会記事	
[講演要旨]1854年安政東海地震の長周期地震動を検証する 中村操, 松浦律子	270	[研究会記事]歴史地震研究会だより 2017年5月～2018年4月 歴史地震研究会幹事会	283-290
[講演要旨]安政東海地震(1854)における愛知県の寺院被害状況の整理(その3)西三河南部における寺院の限界耐力計算 都築充雄	271	第34号(2019)	
[講演要旨]関東地域の震度分布の特徴からみた安政江戸地震の震源像について 中村亮一, 佐竹健治, 石辺岳男, 村岸純, 西山昭仁, 平田直	272	論説・資料	
[講演要旨]昭和東南海地震(1944)による静岡県西部の軍需工場の被害 青島晃, 土屋光永, 野嶋宏二, 松井孝友	273	[論説]史料からみた多賀城市域における1611年慶長奥州地震津波の被害と復興—『安永風土記』などによる史料的検討— 柳澤和明	1-20
[講演要旨]三重県五ヶ所湾湾口集落での東南海地震の体験聞き取り調査 坂本隆彦, 川口ちづほ, 山本徳久, 小佐野喜美恵, 澤村清也, 田中幹也, 畑秀継, 山本正和	274	[資料]1586年天正地震における養老・宮代断層に沿った地殻変動を示唆する史料 深沢晋治	21-30
		[論説]1605年慶長津波を記す「阿闍梨暁印置文」の史料批判 石橋克彦	31-40
		[資料]1944年東南海地震直後の踏査報告の足跡をたどって 鏡味洋史, 水田敏彦	41-53
		[資料]1993年北海道南西沖地震で青苗地区の津波火災は何故起きたのか?—目撃証言・NHKT映像の検証と着火原因の考察— 榎本祐嗣, 山辺典昭, 近藤斎	55-63
		[論説]京都御所地震御殿の造営背景と配置変化の検討 濱野未来	65-74

[論説]安政伊賀上野地震における町家倒壊率の再検討 盆野行輝 75-90	[講演要旨]1677年延宝房総沖地震の震源域周辺で発生した地震の揺れ 植竹富一 215
[資料]房総半島南西岸の関東地震における隆起生物遺骸群集の露頭データ 宍倉正展 91-101	[講演要旨]元禄地震による東海道の宿場の被害と地盤 三神厚 216
[資料]関東大震災写真の改ざんや捏造の事例 沼田清 103-113	[講演要旨]明治村が語る関東大震災—震災をリアライズするために 武村雅之 217
[論説]1605年慶長大津波に関する阿波国宍喰の地震・津波記録の検討 石橋克彦 115-126	[講演要旨]1586年天正地震の震源断層推定:液状化履歴地点における検討から 山村紀香, 加納靖之 218
[論説]869年貞観地震・津波発生時における陸奥国府多賀城周辺の古環境 柳澤和明 127-146	[講演要旨]嘉永七年(1854)の伊賀上野地震における京都での対応 西山昭仁 219
[論説]元禄十六年十一月二十三日寅刻(1703年12月31日, 午前4時)豊後国府内藩領の地震 都司嘉宣 147-153	[講演要旨]1925年北但馬地震における人的被害の要因 大邑潤三 220
[論説]1944年東南海地震による静岡県西部地域の軍需工場の被害 青島晃, 土屋光永, 野嶋宏二, 松井孝友 155-165	[講演要旨]伊勢湾・湾内におけるチリ沖地震津波の被害実相[伊勢市・明和町] 新田康二 221
[論説]1855年安政江戸地震の神奈川周辺の被害について 中村亮一, 西山昭仁, 原田智也, 五島朋子 167-183	[講演要旨]歴史地震にみる震災後の地場産業の復興(1)1891年濃尾地震における東濃の陶器産業と尾張の織物産業 木股文昭, 松多信尚 222
[資料]埼玉県川口市に残る1923年関東地震に関する記録 荒井賢一, 篠田海遥 185-196	[講演要旨]新しい年輪年代測定法が可能にした樹木の枯死年と歴史地震記録との対比:南アルプスドンドコ沢と仁和地震の例 山田隆二, 荻谷愛彦, 木村諤, 佐野雅規, 對馬あかね, 李貞, 中塚武, 井上公夫 223
報告・紹介	[講演要旨]徳島県宍喰沖海底地すべり痕のマルチナロービーム測深 馬場俊孝, 権容大, 松野哲男, 林美鶴, 市原寛 224
[報告]関東大震災と御用邸の被害—宮内公文書館史料から— 木下恭子 197-200	[講演要旨]慶長九年十二月十六日(1605年2月3日)地震津波の高知県室戸市, および大分県米水津(よのうづ)の被害状況 都司嘉宣, 今井健太郎, 大木涼子, 岩瀬浩之 225
[報告]関東大震災での野澤組生き埋め事故の結末 沼田清 201-204	[講演要旨]1605年慶長地震における島津領の津波被害地について 松岡祐也 226
[報告]第35回歴史地震研究会参加記 濱野未来 205-206	[講演要旨]安政南海地震後の大晦日に発生した余震の規模と震源域の推定 堀川晴央, 中西一郎 227
[報告]第35回歴史地震研究会巡検参加報告 浦谷裕明 207-210	[講演要旨]1854年安政東海・南海地震における紀伊半島沿岸の津波痕跡高再評価 今井健太郎, 石橋正信, 行谷佑一, 岩瀬浩之, 高橋成実, 堀高峰, 安田容子, 蝦名裕一 228
講演要旨	
[講演要旨]北海道の歴史津波における文書記録と地質痕跡の整合性 西村裕一 211	
[講演要旨]1611年慶長の三陸地震の再検討 原田智也, 西山昭仁 212	
[講演要旨]1841年1月19日の陸前の地震について 松浦律子, 佐藤大介 213	
[講演要旨]三浦半島の隆起海食洞から発見された古代・中世の大波の痕跡 藤原治, 杉山浩平, 上本進二, 米田穰 214	

[講演要旨]安政東海地震(1854)における愛知県の寺院被害状況の整理(その4)被災した寺院の復興について 都築充雄	229	[講演要旨]京都周辺の地震史料の再検討(1)1407年と1408年の地震 加納靖之, 大邑潤三, 山村紀香, 濱野未来	246
[講演要旨]別府湾沿岸地域で発見された古津波堆積物 山田昌樹, 千葉崇, Catherine Chagué, 篠崎鉄哉, 藤野滋弘	230	[講演要旨]1586年天正地震で伊勢湾北部は沈降したか?—遺跡発掘調査資料からの検討— 小松原琢	247
[講演要旨]文禄五年(1596)の豊後地震と伊予地震が同一地震(閏七月九日)である可能性 石橋克彦	231	[講演要旨]1662年日向灘地震津波の波源像に関する検討 今井健太郎, 中田令子, 兵藤守, 堀高峰, 高橋成実	248
[講演要旨]文禄5年豊後地震関係史料の再検討 榎原雅治, 村田泰輔	232	[講演要旨]文化元年六月四日(1804年7月10日)出羽象潟地震の詳細震度分布 都司嘉宣, 今井健太郎	249
[講演要旨]1596年豊後地震津波で流失した沖ノ浜のブラス宿泊所の位置 日名子健二	233	[講演要旨]1916年8月6日愛媛県東部関川付近の地震: 四国中央構造線の唯一の被害地震 松浦律子, 田力正好	250
[講演要旨]大分県の土砂災害の歴史 今村隆正, 彌富涼子, 小沼拓也, 雨宮圭吾	234	[講演要旨]静岡県伊豆半島に被害をもたらした津波と地名から減災を考える 上村勇輔, 荒井賢一	251
[講演要旨]1889年熊本地震直後の踏査報告の足跡をたどって 水田敏彦, 鏡味洋史	235	[講演要旨]尾道市史編纂室蔵『永記録』の1855年安政江戸地震に関する記述 山村紀香, 加納靖之, 石川良枝	252
[講演要旨]歴史地震総表について 宇佐美龍夫, 石井寿	236	[講演要旨]静岡県における1707年宝永地震の震度分布の再検討 高橋那奈, 林能成	253
[講演要旨]帝国大学理科大学「地震学及地理学研究材料報告」に記載される津波痕跡の検証 蝦名裕一, 佐竹健治	237	[講演要旨]地盤標高の標準偏差を考慮した徳島県内における安政南海津波の被害関数 行谷佑一, 今井健太郎	254
[講演要旨]和漢年代記の改訂・増補と地震記事—『倭漢皇統編年合運図』を中心に— 片桐昭彦	238	[講演要旨]震度アンケート調査票の欄外に記述された1944年東南海地震の被害と諸現象 原田智也, 佐竹健治, 古村孝志, 室谷智子	255
[講演要旨]明治期の地震史料としての伏見酒造組合文書 加納靖之, 水島和哉	239	[講演要旨]三重県における南海トラフ沿いの歴史地震津波に関する現地調査結果について 久永哲也, 内田篤貴, 原田怜, 佐々木哲朗, 岩瀬聡, 浦谷裕明, 武村雅之, 都築充雄	256
[講演要旨]ジョン・ミルンによる国際的な地震観測情報の一元的把握に向けた取り組み 阪本真由美	240	[講演要旨]美術的価値が見出された地震火山資料 室谷智子	257
[講演要旨]台湾における道教信仰と歴史地震 塩川太郎, 林麗華	241	[講演要旨]判読可能な津波碑文画像の取得方法の提案 上相英之, 多仁照廣, 蝦名裕一	258
[講演要旨]計器観測時代初期に発生した顕著地震の再検討 石辺岳男	242		
[講演要旨]地震動予測式による歴史地震の震源位置探索への試み 司宏俊, イブラヒム ラミ	243		
[講演要旨]歴史的な大規模土砂災害(特に地震災害)の事例紹介 井上公夫	244		
[講演要旨]過去の津波災害記録を津波避難タワーに活かす 松尾裕治, 村上仁士	245		
		研究会記事	
		[研究会記事]歴史地震研究会だより 2018年5月～2019年4月 歴史地震研究会幹事会	259-272